

2019
R 1

平成31年度 全国学力・学習状況調査

平成31年度 山梨県学力把握調査

平成31年度 山梨県教育課程実施状況調査

山梨県教育委員会

結果と授業改善のポイント



P 2 調査結果を踏まえた授業改善の取組

P 3 資料の見方

全国学力・学習状況調査 (P5～P36)

P 7 概要

P 12 質問紙調査結果概要

P 16 集計結果及び分析と授業改善のポイント

山梨県学力把握調査 (P37～P48)

P 38 概要

P 40 分析と授業改善のポイント

山梨県公立小中学校教育課程実施状況調査 (P 49～P59)

P 51 概要

P 52 結果と授業改善のポイント

P 60 「学力調査全体総括」と「理科・英語の継続的指導」

P 61 2019年度山梨県総合教育センター研究協力校
拡大校内研究会について

調査結果を踏まえた授業改善の取組

※ まずは、先生方が調査問題を解きましょう。問題を解いた後には…。

- ①分類の各項目について結果を見ます。
- ②正答数分布グラフの分布の形状から、児童生徒の解答状況を把握します。

自校の課題について**全教職員で共有**します。

1 課題のある設問

- ③全国平均や県平均との差が大きい設問（5ポイント以上差が開いているもの）、正答率の低い設問、無解答率の高い設問に着目します。

2 反応率の高い誤答

- ④解答類型の反応率から誤答の状況（児童生徒はどこでつまづいているのか）をつかみます。

3 誤答から児童生徒の実態をつかむ

- ⑤誤答の原因（どこに課題があるのか）を考えます。

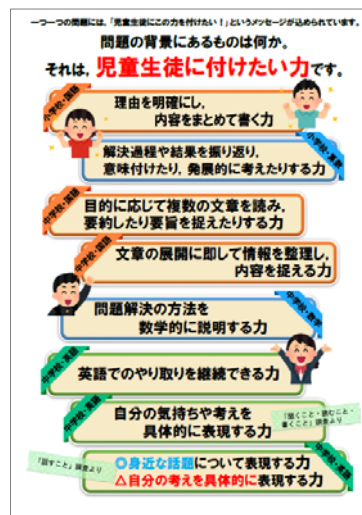
「やまなしスタンダード」
7つの視点を授業づくりに
生かしましょう。

4 児童生徒の実態を踏まえて授業をつくる

- ⑥対象学年だけでなく、それぞれの学年で取り組むべきことを明らかにします。

- ⑦本冊子「結果と授業改善のポイント」やパンフレット（下：管理職研修会で配付）、国の調査資料（解説資料、報告書、授業アイデア例等）を参考にして、指導の改善・充実を図りましょう。

※県の結果資料は山梨県総合教育センターのホームページから、国の調査資料は国立教育政策研究所のホームページからダウンロードできます。各校の校内研究会等での活用を推奨します。



資料の見方

「中央値」

例えば、対象が121人の場合、その121人を、正答した数が多い順に1番から並べて、ちょうど真ん中の61番の生徒の正答数が中央値となる。一般的には、平均正答数より上か下かで自分の位置を把握することが多いが、中央値を基準にして見る方がより自分の位置をつかみやすい。また、集団同士を比べる場合にも中央値の違いに目を向けることが大切である。

平均正答数と中央値がほぼ一致している場合は、どちらで比べてもあまり変わりはないが、平均正答数と中央値が極端に異なる場合があるので注意する。

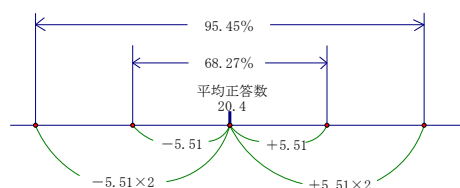
「中央値」

集団のデータを大きさの順に並べたとき、中央に位置する値。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
山梨県 (公立)	6,446	8.7 / 14	62	9.0	3.3
全国 (公立)	1,028,203	8.9 / 14	63.8	10.0	3.4

「標準偏差」

平均値と標準偏差が分かれば、データがどの範囲にどのような割合で散らばっているか（分布）がある程度、明らかになる。図で表すと次のようになる。



例えば、平均正答数が20.4、標準偏差が5.51の場合、 20.4 ± 5.51 （平均正答数 \pm 標準偏差）の範囲に全データの68.27%（約2/3）が含まれ、 $20.4 \pm 5.51 \times 2$ （平均正答数 \pm 標準偏差の2倍）の範囲内に全データの95.45%（約19/20）が含まれているという意味である。

標準偏差の値が小さければ、分布のばらつきが小さく、標準偏差の値が大きければ、分布のばらつきが大きいことを表している。自分の学校、学級のデータのばらつき具合を数値として知るために用いる。

学校や学級の実態として、ばらつきが大きければ、授業中の課題提示を工夫することが考えられる。

「標準偏差」

集団のデータのばらつきを図る1つの尺度。

「学習指導要領における領域・内容」

調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実を図る際の参考となるように、関係する領域・内容を示したものを。

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域等				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	山梨県(公立)	全国(公立)	山梨県(公立)
1-	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で(資料2)と(資料3)をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する		5・6 I				○			○			70.0	71.2	0.4	0.5

「解答類型ごとの反応率」

各設問の解答類型別の反応率を見ることで、誤答に目を向け授業改善の視点を探ることができる。

正誤だけではなく、一人一人の誤答の状況や誤答の割合が高い類型に注目することで、児童生徒がどんなことにつまずいているのかが見える。さらに、課題の質を吟味することにより、学習指導の改善・充実を図ることができる。

※反応率は、小数第二位を四捨五入したものであるため、「正答」と「準正答」の反応率の合計と正答率が一致しない場合がある。

「解答類型」

一人一人の児童生徒の具体的な解答状況を把握することができるように、設定する条件などに即して解答を分類、整理したもの。

「反応率」児童生徒の解答を想定した解答類型に該当する児童生徒の解答数の全体に対する割合。

設問番号	設問の概要	解答類型 ※下線が正答(9は上記以外の解答)									無解答
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
9	二人の説明をもとに、 37×24 の積が888になることを書く	27.5	10.8	10.2	2.7	3.6	15.2	5.9	1.5	17.7	4.8

※上の表の○で囲んだ数値が、それぞれの解答類型の反応率(%)

全国学力・学習状況調査



平成31年度（令和元年度）

全国学力・学習状況調査結果の概要について

山梨県教育委員会

1 調査の本県の概要

○実施日 平成31年4月18日（木）

○目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・上記のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学、英語（3年に一度））

- ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し以下の通りとする。調査問題では、下記ア)とイ)を一体的に問うこととする。
 - ア)身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - イ)知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
- ・中学校英語調査の結果については、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計する。また、「話すこと」調査結果については、全国の平均正答数及び平均正答率を別に集計して「参考値」として公表することとし、都道府県別、指定都市別の公表は行わない。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査，学校に対する調査

○対象 小学校第6学年，中学校第3学年の全児童生徒

○県内(公立学校)の実施状況

	公立小学校	特別支援学校 小学部	公立中学校	特別支援学校 中学部	合計
学校数 (分校含む)	167校	0校	81校	4校	252校
児童生徒数	6,446人		6,415人		12,861人

2 全体についてのコメント

①全体的に見て、昨年度よりも改善している。

- ・ 全国平均と同等もしくは上回る教科が増えてきた。
- ・ 全国平均を下回る教科についても、その差はわずかである。

平成31年度(令和元年度) 本県の調査結果(公立) 【悉皆】

	小学校調査		中学校調査		
	国語	算数	国語	数学	英語
平均正答数(本県)	8.7/14	9.3/14	7.5/10	9.5/16	11.6/21
平均正答数(全国)	8.9/14	9.3/14	7.3/10	9.6/16	11.8/21
全国平均正答数との比較	★	—	☆	★	★
平均正答率(本県)	62	66	75	60	55
平均正答率(全国)	63.8	66.6	72.8	59.8	56.0

※全国平均正答数を上回っている(☆), 同値(—), 下回っている(★)

※教科に関する調査の平均正答率は、±10%の範囲内(−1.8, −0.6, +2.2, +0.2, −1.0)にあり、全国的に見て大きな差はないと判断できる。

平成30年度 本県の調査結果(公立) 【悉皆】

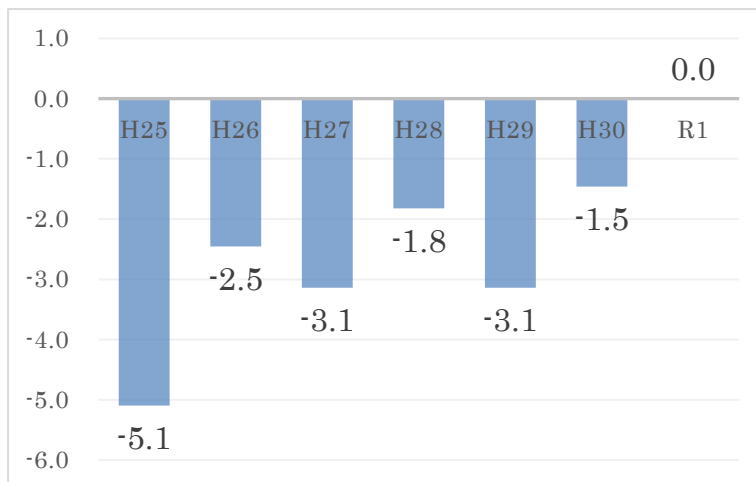
	小学校調査		中学校調査	
	国語	算数	国語	数学
平均正答数(本県)	12.8/20	13.7/24	30.0/41	30.3/50
平均正答数(全国)	12.9/20	14.0/24	29.8/41	30.4/50
全国平均正答数との比較	★	★	☆	★

※今年度調査より、全ての教科において知識(A)・活用(B)を一体的に問う問題形式となり、従来のAB区分がなくなったことを受け、昨年度の平均正答数についてはABを合算した。

②経年的に見て、改善の傾向が読み取れる。

- ・ 平成25年度には全国平均から−5.1ポイントの差があったが、年々その差を縮め、本年度は差がなくなった。
- (平成25年度からは5.1ポイント、平成30年度からは1.5ポイント平均との差を縮めた。)(図1)

図1 本県平均正答率と全国平均正答率との差の合計の推移(英語を除く)

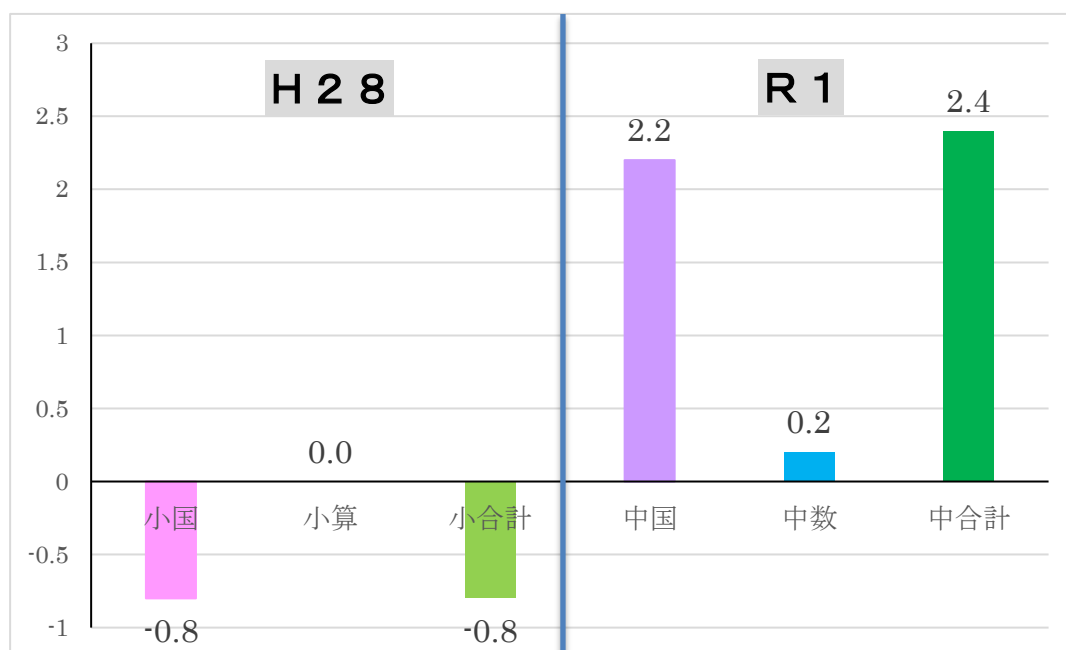


※今年度調査より、全ての教科において知識(A)・活用(B)を一体的に問う問題形式となり、従来のAB区分がなくなったことを受け、過去調査の各年度におけるABの平均正答数を合算

し、改めて平均正答率を算出してグラフを作成しなおした。

- ③同一生徒（中学3年生が小学校6年時）の比較では、3.2ポイント上昇している。（小学校6年時－0.8から、本年度＋2.4に全国平均を上回るまで、伸びを示している。）（図3）

図2 小学校6年（H28）と中学校3年（R1）における全国平均正答率との差



- ④質問紙調査においては、昨年度までと同様に、多くの項目で全国平均を大幅に上回っている。

<児童生徒質問紙>

- ・学習に関する項目の90%以上において、肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国平均を上回っている。
- ・学習環境や生活環境に関する項目において、肯定的な回答をした児童生徒の割合が非常に高い。

（例）「人が困っているときは、進んで助けていますか」

<学校質問紙>

- ・100%の肯定的な回答を示している項目がある。これは、全県的な取組が浸透している成果である。

（例）「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている」

- ⑤中学校 英語「話すこと」調査について

- ・文部科学省から「参考値（平均正答数1.5／5問 平均正答率30.8%）」として集計された。

3. これまでの取組

1 学力向上総合対策事業の推進

授業改善

- 学力向上推進事業（学力向上対策会議，学力向上キャラバン）
- 学びのサイクル改善事業
- 主体的・対話的で深い学び推進事業
- 学力向上支援スタッフ配置事業
- 中学生英語力向上サポート事業
- 読解力・記述力向上推進事業
- 山梨県学力把握調査事業

教員の資質向上

- 授業力養成事業
- ミドルリーダー研修事業
- 若手教員グローアップ事業

家庭・地域との連携

- 家庭学習習慣化促進事業

2 やまなしスタンダードの推進

- ・「やまなしスタンダード～授業づくりの7つの視点」のもと，県全体で授業づくりの取組を進めている。

3 地域の実態に応じた取組の実施

- ・地域学力向上推進幹を中心とした，各地域の特色や課題に焦点を当てた学力向上対策を進めている。

4 県教委による採点および採点講習会の実施

- ・小・中学校の答案を総合教育センター指導主事（小・中・高）が採点し，今年度の傾向を分析した。また，自校採点の方法等に関する講習会（小・中）を実施した。

5 各種説明会を通じた早期の授業改善の推進

- ・管理職研修会（6月4日・11日）を通じて，授業改善のための組織的な対応を促した。また，学力調査を踏まえた授業改善のための説明会（小：6月18日，中：6月20日）を開催し，誤答の分析方法や授業改善のポイントをまとめた冊子を配付して，早期の授業改善を促した。

4. 結果を踏まえた今後の取組

○指導主事による学校訪問

- ・市町村，学校毎の状況を把握することにより，成果や効果的な実践を共有し，学校訪問を通じて指導改善の取組の周知・徹底を図る。

○「学力向上フォーラム2019」の開催

- ・大学の教授を講師に招聘して，全国学力・学習状況調査より明らかになった課題，学校での学習と学力向上対策等についての講演をいただく。また，学力向上総合対策事業である「学びのサイクル改善事業」，「読解力・記述力向上推進事業」に関わった実践例を紹介して，県内小・中学校の確かな学力の定着と向上を図る。

○「ピックアップ問題」の作成と配信

- ・県の学力把握調査や全国学力・学習状況調査の結果を受け，課題がある学習内容についてのピックアップ問題を作成し，確実な学力の定着を目指す。

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 質問紙調査結果概要について

1. 生活習慣や学習環境等に関する調査の本県の結果（概要の参考資料より）

(1) 児童生徒質問紙

※全国平均を上回る主な内容 <上 段：本県回答率 下 段：全国平均との差>
<数値は肯定的な回答をした児童生徒の割合を表す>

質問項目	小学校	中学校
①（小中共通） 授業で学んだことを，ほかの学習に生かしていますか	87.7% +4.9	81.2% +6.3
②（小中共通） 国語の授業で学習したことを，普段の生活の中で，話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか	83.0% +6.1	79.4% +7.8
③（小中共通） 国語の授業の内容はよく分かりますか	88.7% +3.8	83.9% +6.3
④（小学校） 算数の授業で学習したことを，普段の生活の中で活用できないか考えますか	81.6% +5.1	
⑤（中学校） 英語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか		87.9% +2.5
⑥（小中共通） 人が困っているときは，進んで助けていますか	92.6% +4.7	90.3% +4.4
⑦（小中共通） 今住んでいる地域の行事に参加していますか	79.7% +11.7	65.8% +15.2
⑧（小中共通） あなたの学級では，学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い，互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか	86.0% +12.0	84.2% +12.6

※全国平均を下回る主な内容 <上 段：本県回答率 下 段：全国平均との差>
<数値は肯定的な回答をした児童生徒の割合を表す>

質問項目	小学校	中学校
⑨（小中共通） 学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む） 【1時間以上】	65.5% -0.6	69.3% -0.5
⑩ 解答時間は十分でしたか（英語）		56.8% -6.2

(2) 学校質問紙

※肯定的な回答 100% を達成している項目

質問項目	小学校	中学校
①授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	100%	100%
②校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか	100%	98.9%
③調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか	100%	98.9%
④学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか	100%	97.7%
⑤調査対象学年の児童（生徒）に対する国語の指導として、前年度までに、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	100%	94.1%
⑥調査対象学年の児童（生徒）に対する国語の指導として、前年度までに、児童（生徒）が行った家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について、評価・指導を行いましたか	100%	94.2%
⑦（小）平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか （中）平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	100%	94.1%
⑧調査対象学年の児童（生徒）に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか	95.2%	100%
⑨調査対象学年の児童（生徒）に対する国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	97.6%	100%

※学校質問紙において小学校・中学校ともに課題がみられる項目

質問項目	小学校	中学校
⑩（小）前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか （中）前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	52.1% -12.9	52.9% -15.1

2. 今後について

(1) 学習に関わる項目について

【学校質問紙】

- 調査対象学年の児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている（小 91.7% 中 87.0%）
- 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた（小 88.7% 中 83.6%）

【児童生徒質問紙】

- 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている（小 87.7% 中 81.2%）
- 5年生までに（1, 2年生のときに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた（小 82.7% 中 78.7%）

【学校質問紙】

- 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った（教科共通）（小 97.6% 中 93.0%）
- 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童（生徒）に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにした（教科共通）（小 99.4% 中 94.1%）

【児童生徒質問紙】

- 家で自分で計画を立てて勉強をしている（小 76.1% 中 53.6%）
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか 【1日1時間以上】（小 65.5% 中 69.3%）

【児童生徒質問紙】

- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う（小 93.7% 中 90.9%）
- 算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う（小 93.8% 中 76.8%）
- 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う（中 87.9%）

(2) 小中連携および地域・保護者との連携について

【学校質問紙】

- 前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った（小 52.1% 中 52.9%）
- 前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った（小 65.8% 中 62.4%）
- 平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校（小学校）と成果や課題を共有した（小 56.3% 中 54.1%）

【学校質問紙】

- 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている
(小 95.9% 中 82.3%)
- 保護者や地域の人が学校の美化，登下校の見守り，学習・部活動支援，放課後支援，学校行事の運営などの活動に参加している (小 98.8% 中 87.0%)
- 上の質問にあるような，保護者や地域の人との協働による取組は，学校の教育水準の向上に効果があった (小 97.0% 中 84.7%)
- 部活動のあり方について，保護者や地域と連携して見直しを進めている (中 81.2%)

【学校質問紙】

- 指導計画の作成に当たっては，各教科等の教育内容を相互の関係で捉え，学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で，その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している (小 99.4% 中 96.5%)
- 教育課程表 (全体計画や年間指導計画等) について，各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成している (小 98.2% 中 85.9%)

(3) キャリア教育について

【学校質問紙】

- 調査対象学年の生徒に対して，前年度までに，将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした (小 83.9% 中 95.3%)

(4) ICTの活用について

【学校質問紙】

- 調査対象学年の生徒に対する指導において，前年度に，教員が大型提示装置 (プロジェクター，電子黒板など) などのICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか【月1回以上】 (小 97.6% 中 80.0%)

【児童生徒質問紙】

- 5年生までに (1，2年生のときに) 受けた授業で，コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか【月1回以上】 (小 74.4% 中 50.9%)
- 授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思う (小 87.4% 中 79.8%)

(5) 言語活動について

【学校質問紙】

- 学校全体の言語活動の実施状況や課題について，全教職員の間で話し合ったり，検討したりしている (小 98.2% 中 91.8%)
- 言語活動について，国語科だけではなく，各教科，道徳，外国語活動 (小のみ)，総合的な学習の時間及び特別活動を通じて，学校全体として取り組んでいる (小 99.4% 中 98.8%)

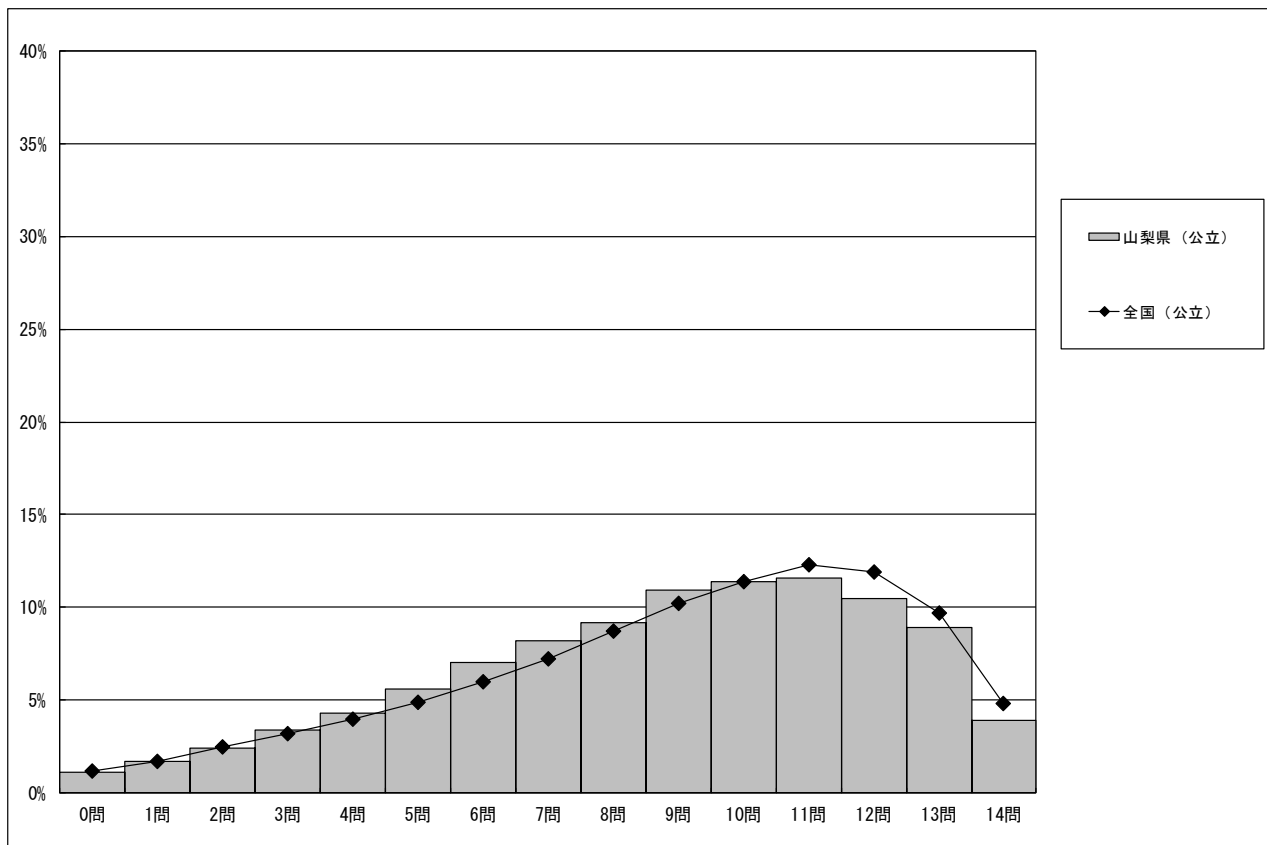
全国 小6 国語

平成 31 年度全国学力・学習状況調査結果 小学校 国語

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
山梨県 (公立)	6,446	8.7 / 14	62	9.0	3.3
全国 (公立)	1,028,203	8.9 / 14	63.8	10.0	3.4

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)	
			山梨県 (公立)	全国 (公立)
全体		14	62	63.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	70.3	72.3
	書くこと	3	53.1	54.5
	読むこと	3	81.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	51.4	53.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	56.1	57.6
	話す・聞く能力	3	70.3	72.3
	書く能力	3	53.1	54.5
	読む能力	3	81.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	5	51.4	53.5
問題形式	選択式	7	73.7	75.1
	短答式	4	46.6	48.7
	記述式	3	56.1	57.6

正答数分布グラフ



全国 小6 国語

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	山梨県(公立)	全国(公立)	山梨県(公立)
1一	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で〈資料2〉と〈資料3〉をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する		5・6 エ				○			○			70.0	71.2	0.4	0.5
1二	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2) 公衆電話にはどのような使い方や持ちようがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する		5・6 ウ				○			○			61.2	63.4	5.7	5.9
1三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く		5・6 ウ		○		○				○		28.2	28.8	2.8	3.8
1四(1)ア	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部アを、漢字を使って書き直す (調査のたいしょう)				5・6 (1)ウ (ア)				○		○		37.9	41.9	8.2	8.2
1四(1)イ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部イを、漢字を使って書き直す (友達にかざらず)				5・6 (1)ウ (ア)				○		○		65.9	69.4	13.4	12.1
1四(1)ウ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部ウを、漢字を使って書き直す (かみしんをもってもらいたい)				5・6 (1)ウ (ア)				○		○		36.7	35.6	4.9	4.9
1四(2)	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□の□の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す				3・4 (1)イ (ウ)				○		○		46.1	47.8	11.9	11.3
2一(1)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の□に入る「疑問に思ったこと」の①に対する答えとして適切なものを選択する			5・6 ウ				○		○			80.4	80.7	1.0	1.4
2一(2)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の□に入る「疑問に思ったこと」の②に対する答えになるように考えて書く			5・6 ウ		○		○			○		75.2	75.9	4.2	5.0
2二	梅干し作りについて【知りたいこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から、読むページとして適切なものを選択する			5・6 イ				○		○			88.2	88.5	3.7	4.2
3一	量職人への【インタビューの様子】の□に入る、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する	5・6 エ						○			○		80.3	81.3	3.5	3.4
3二	量職人への【インタビューの様子】の□の□の場面における、質問の工夫として適切なものを選択する	5・6 エ						○			○		65.7	67.4	4.5	4.2
3三	【インタビューの様子】の□に、量職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	5・6 エ				○	○				○		65.0	68.2	14.8	14.2
3四	ことわざの使い方の例として、【ノートの一部】の□に入る適切なものを選択する(習うより慣れよ)				3・4 (1)ア (イ)				○		○		70.3	73.0	9.9	7.9

課題の見られる設問 1三

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって
 なくなってしまうわけではないと考えました。
 なぜなら、◆

70字

40字

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
 ※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

- （条件）
- 「2 調査の内容と結果」の（1）と（2）の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。
 - 【報告する文章】にふさわしい表現で書くこと。
 - 書き出しの言葉に続けて、四十字以上、七十字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

三 高橋さんは、「3 調査の結果をもとに考えたこと」の [] に「2 調査の内容と結果」の（1）と（2）で分かったことをまとめて書いています。 [] に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

解答類型と反応率（1 段目：山梨県（公立）の反応率（%）、2 段目：全国（公立）の反応率（%））

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
1三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の [] に、「2 調査の内容と結果」の（1）と（2）で分かったことをまとめて書く	28.2	0.0	7.5	19.3	7.1	10.3	1.3	0.9	22.6	2.8
		28.8	0.0	7.3	19.5	7.1	10.3	1.0	0.8	21.3	3.8

分析と課題

解答類型4と、解答類型5の反応率の合計は、26.4%である。これらは「2 調査の内容と結果」の（1）または（2）のいずれかからのみ、分かったことについて言葉や文を取り上げている。解答類型6の反応率は、10.3%である。調査の内容とそこから分かったことを取り上げて書くことができなかつたと考えられる。

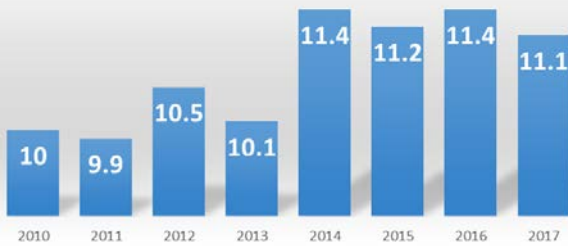
自分の考えを相手に分かりやすく伝わるように書くために、事実と考えを区別して書いたり、理由を明確にして自分の考えをまとめたりすることに課題がある。

授業改善の
ポイント

自分の考えと理由を書き分ける

3・4 学年の学習で...

小学生が1ヶ月間に読んだ本の冊数(5月)

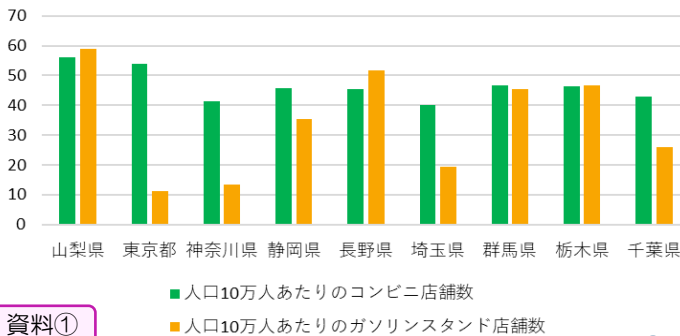


「資料を読む」活動を通して、**資料から分かったことをまとめる**学習をします。

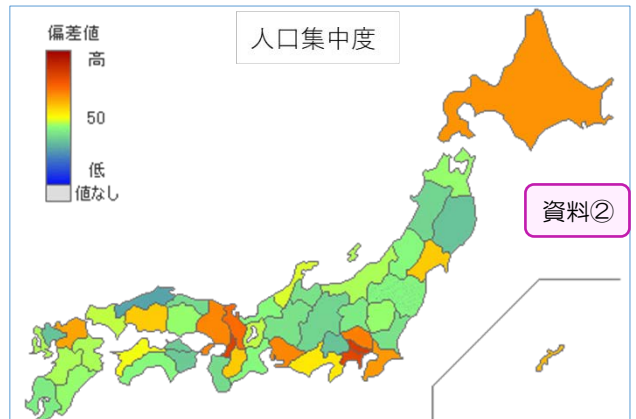
- ◇資料から情報を読み取る。
- ◇読み取った情報から、自分の考えを明らかにする。
- ◇自分の考えを支える理由を明確にする。

5・6 学年の学習で...

人口10万人あたりの店舗数



資料①



山梨県は、車社会と言われるが、地域に特徴があるのだろうか。資料を集めて考えてみたい！

この間、近所にコンビニエンスストアができた。そういえば山梨はコンビニが多い気がする。この資料を見て、何か理由があるのかを探してみたい！

◇**資料①から分かったこと**と、**資料②から分かったこと**を、それぞれ引用して(あるいは要約して)、まとめの段落の中に書いていますか？ ~考えを支える複数の資料の活用を~

再確認

- ◆資料が使われている文章や新聞など、様々な文章を読む場を設定しましょう。
- ◆付けたい力を明確にするために、学習指導要領解説を参考にしましょう。

目的に合った資料の選択。
(グラフ・表・図・写真)

資料と文章を対応させて書く。

事実(資料から分かったこと)と、自分の考えを区別して書く。

説得力のある文章に

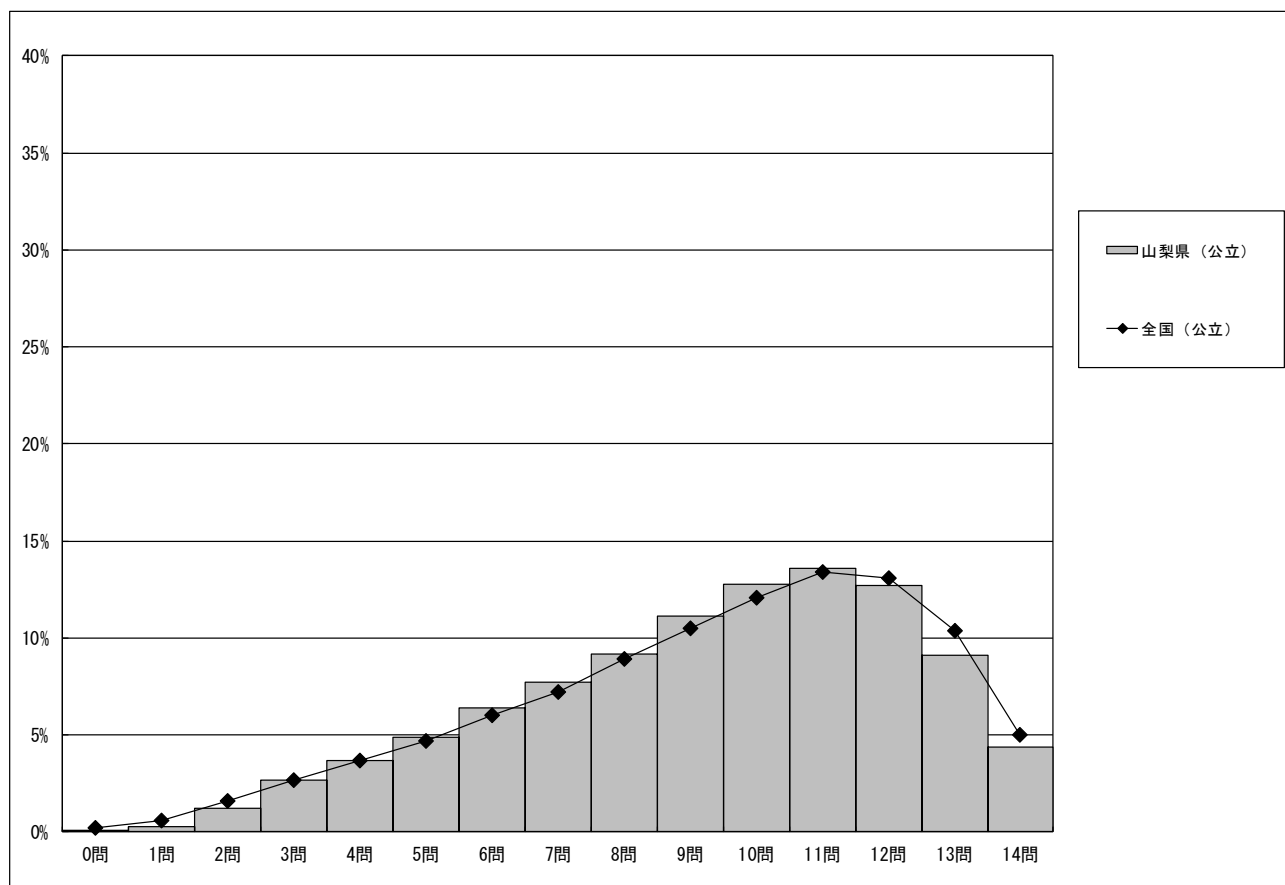
全国 小6 算数

平成 31 年度全国学力・学習状況調査結果 小学校 算数

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
山梨県 (公立)	6,412	9.3 / 14	66	10.0	3.0
全国 (公立)	1,028,177	9.3 / 14	66.6	10.0	3.1

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)	
			山梨県 (公立)	全国 (公立)
全体		14	66	66.6
学習指導要領の領域	数と計算	7	62.6	63.2
	量と測定	3	52.3	52.9
	図形	2	77.0	76.7
	数量関係	7	67.4	68.3
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0		
	数学的な考え方	8	62.0	62.2
	数量や図形についての技能	4	73.3	73.6
	数量や図形についての知識・理解	2	68.3	70.1
問題形式	選択式	5	74.9	75.7
	短答式	5	72.6	72.8
	記述式	4	47.2	47.4

正答数分布グラフ



全国 小6 算数

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	山梨県(公立)	全国(公立)	山梨県(公立)	全国(公立)
1(1)	長方形を直線で切ってきた図形の中から、台形を選ぶ			4(1) アイ				○	○			93.1	93.1	0.0	0.1	
1(2)	二つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくることのできる形を選ぶ			4(1) イ 5(1) イ			○		○			60.9	60.3	0.4	0.6	
1(3)	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く			5(1) ア			○			○		42.3	43.9	4.3	6.7	
2(1)	1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ						3(3) ア	○	○			95.6	95.2	0.1	0.2	
2(2)	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く	4(3) イ					3(3) ア	○		○		81.2	78.6	0.8	1.0	
2(3)	二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだだけを書く			5(4) ア			3(3) ア	○		○		52.4	52.1	1.4	2.0	
2(4)	洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する	4(5) ウ					4(2) ア	○		○		55.6	60.1	0.6	1.0	
3(1)	$350 - 97$ について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く			3(2) イウ				○		○		83.3	81.8	0.6	0.9	
3(2)	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようなのかを書く	3(2) ウ 4(3) エ						○		○		31.9	31.1	7.7	10.8	
3(3)	被除数と除数にかけの数や割る数を選び、 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する	4(3) イエ						○		○		76.2	74.9	1.5	2.1	
3(4)	$1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ			5(3) アイウ			3(1)		○	○		43.5	47.0	1.7	2.2	
4(1)	だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ						4(1)	○		○		81.4	82.7	1.4	1.7	
4(2)	何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求める式を書く	3(3) イ						○		○		66.7	68.6	3.2	4.4	
4(3)	残り7ポール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する			5(4) ア			5(1) ア	○		○		62.1	62.6	3.2	3.5	

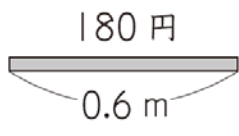
課題のみられる設問 3 (4)

(4) ゆいなさんは、下の問題について考えています。

問題

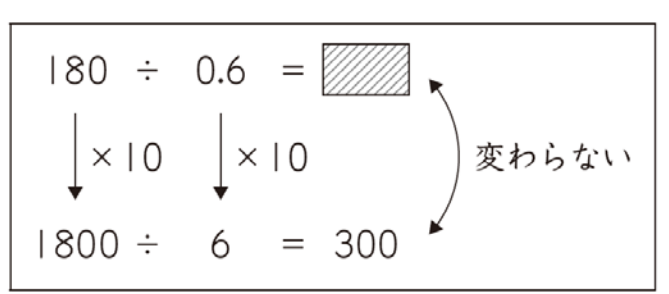
リボンを 0.6 m 買ったときの代金が 180 円でした。

このリボン 1 m 分の代金は、いくらですか。



1 m 分の代金は $180 \div 0.6$ の式で求めることができます。

ゆいなさんは、次のように、小数のわり算を整数のわり算にして答えを求めました。



だから、 $180 \div 0.6$ の答えの [] は、300 です。

$1800 \div 6$ は、何 m 分の代金を求めている式といえますか。

下の **あ** から **え** までの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

- あ** 0.6 m 分の代金 **い** 1 m 分の代金
う 6 m 分の代金 **え** 10 m 分の代金

解答類型と反応率 (1 段目: 山梨県(公立)の反応率(%), 2 段目: 全国(公立)の反応率(%))

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
3 (4)	1800 ÷ 6 は、何 m 分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ	12.9	43.5	23.3	17.8					0.7	1.7
		12.9	47.0	22.2	15.2					0.6	2.2

分析と課題

正答は、 **い** である。

う と解答 (解答類型 3) の反応率は 23.3% である。 $1800 \div 6$ の除数の 6 に着目して、6 m 分の代金を求めていると捉えていると考えられる。**え** と解答 (解答類型 4) の反応率は 17.8% である。 $180 \div 0.6$ の式で 1 m 分の代金を求めていることから、被除数と除数を 10 倍した $1800 \div 6$ の式では、10 m 分の代金を求めていると捉えていると考えられる。

式の意味についての理解を深める必要がある。また、除法に関して成り立つ性質を活用し、計算を工夫する場を設定することが大切である。

授業改善の
ポイント

4年生の学習で...

「除数及び被除数に同じ数をかけても、除数及び被除数を同じ数で割っても、商は変わらない」という、除法に関して成り立つ性質を学習します。

T: $400 \div 25$ を、わり算の性質を使って、工夫して計算しましょう。

$$\begin{array}{r} 400 \div 25 = \square \\ \downarrow \times 4 \quad \downarrow \times 4 \\ 1600 \div 100 = 16 \end{array} \quad \text{変わらない}$$

だから、 $400 \div 25$ の答えの \square は、16 です。

C: $400 \div 25$ はパッと答えられないけど...

C: $1600 \div 100$ なら暗算で答えを求めることができそうです。

※小数や分数の除法や、約分、通分などの学習場面において、除法に関して成り立つ性質が用いられています。学習する際、除法に関して成り立つ性質が用いられていることを確認することが大切です。

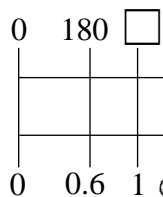
全学年の学習で...

何を求めている式かを、具体物や図、数直線などを用いて考える活動を取り入れましょう。

例えば、5年生の学習で...

T: リボン0.6mの代金が180円です。1m分の代金はいくらですか。

C: 0.6mで180円、1m分の代金を□円として数直線に表しました。



C: 図から、1m分の代金を求める式は、 $180 \div 0.6$ です。

C: 180, 0.6をそれぞれ10倍しました。リボン6mの代金が1800円です。

C: 1m分の代金を求める式は、 $1800 \div 6$ です。

C: 同じリボンだから1m分の代金は同じですね。

何を求めているの？
1800や6は
何を表しているの？

なぜ、
わられる数とわる数に
10をかけるの？

5年生の学習で...

除法に関して成り立つ性質を用いて、「小数のわり算（第5学年）」の計算の仕方考えます。

T: $180 \div 0.6$ の計算の仕方考えましょう。

C: 私は、0.6に10をかけて、 $\div 0.6$ (小数) を $\div 6$ (整数) にして求めます。

C: $\div 6$ なら、4年生で学習したわり算 (\div 整数) で計算できます。

T: $\div 0.6$ (小数) を $\div 6$ (整数) にしたら、商が変わってしまいませんか。

C: 「わり算の性質」を使います。わられる数とわる数に同じ数をかけても、わられる数とわる数を同じ数で割っても、商は変わらないという性質です。

C: 180と0.6に10をかけて $1800 \div 6$ にして...

$$\begin{array}{r} 180 \div 0.6 = \square \\ \downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10 \\ 1800 \div 6 = 300 \end{array} \quad \text{変わらない}$$

C: この性質を使えば、商が同じまま \div 整数にして計算できます。

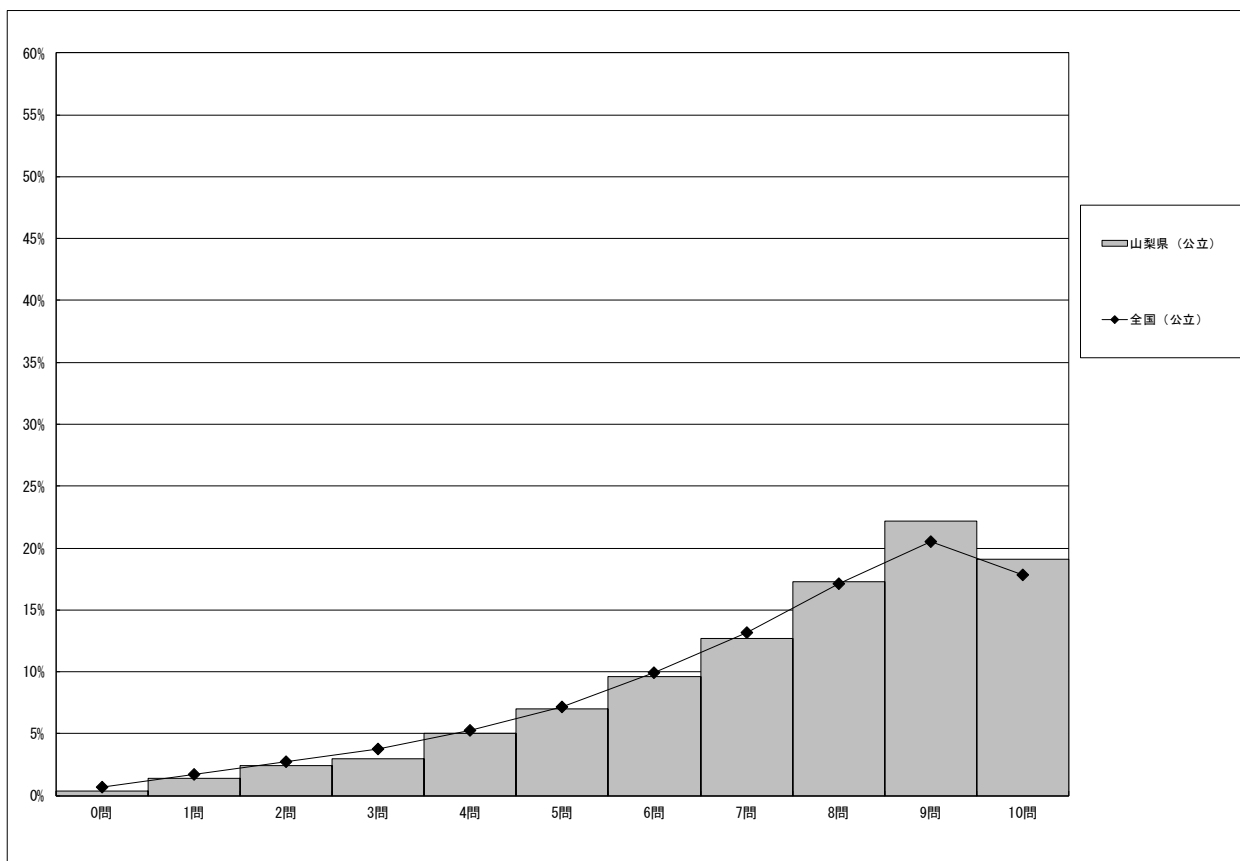
全国 中3 国語

平成 31 年度全国学力・学習状況調査結果 中学校 国語

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
山梨県 (公立)	6,415	7.5 / 10	75	8.0	2.3
全国 (公立)	938,797	7.3 / 10	72.8	8.0	2.4

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)	
			山梨県 (公立)	全国 (公立)
全体		10	75	72.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	72.9	70.2
	書くこと	2	84.2	82.6
	読むこと	3	73.2	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	69.4	67.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	79.3	76.5
	話す・聞く能力	3	72.9	70.2
	書く能力	2	84.2	82.6
	読む能力	3	73.2	72.2
	言語についての知識・理解・技能	2	69.4	67.7
問題形式	選択式	6	74.6	73.6
	短答式	1	60.0	56.8
	記述式	3	79.3	76.5

正答数分布グラフ



全国 中3 国語

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	山梨県(公立)	全国(公立)	山梨県(公立)
1一	「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です。」について説明したものとして適切なものを選択する			2ウ					○	○			64.7	63.9	0.1	0.1
1二	「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する			1イ					○	○			62.0	61.5	0.1	0.1
1三	「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く			1オ		○		○			○		93.1	91.2	1.0	1.7
1四	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く			1(2)ア					○	○			60.0	56.8	3.9	5.6
2一	話し合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	1オ				○				○			82.2	80.4	0.1	0.2
2二	話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	1ウ				○				○			71.8	69.7	0.2	0.3
2三	話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く	1オ				○	○				○		64.7	60.4	6.1	8.9
3一	意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する		2エ					○		○			88.3	87.4	0.3	0.4
3二	広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える		1ウ			○		○			○		80.1	77.8	6.2	7.9
4	語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する				1(1)イ(9)				○	○			78.8	78.7	1.4	1.2

課題の見られる設問 2 三

第一中学校の生徒会役員の山下さんたちは、「地域とのつながりを大切にした文化祭にするために」という議題で話し合っています。次は、【話し合いの一部】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。(場面①から場面③は、連続した場面です。)

場面②

この前、インターネットのニュースを見て、高齢者の中には少しの段差でも歩きづらいつ感じたり、段差に気付かず驚いたりしている方がいることを知りました。文化祭には、毎年、高齢者がたくさんいらっしゃいます。ですから、体育館へ向かう通路などに、「段差に気を付けてください。」と書いた紙を掲示してはどうでしょうか。

倉田さん 西野さん

ネットにそのようなニュースが出ているんですね。掲示物で注意を促すのはよいアイデアだと思います。そういえば、校内に「土足禁止」という掲示物がありますが、展示や発表を見に来てくださる方に対する言葉の使い方としては、ふさわしくないと思います。別の表現にしてはどうでしょうか。

山下さん

そうですね。段差への注意を促す掲示物を作ることにしましょう。「土足禁止」をどのような表現に直すのかについては、話し合えないといけませんね。以前から、私も気になっていました。

山下さんも気になっていたんですね。それに、例年、展示や発表の場が校内に点在しているので、見て回る経路の例を示した紙を配るとよいと思います。

倉田さん 西野さん

賛成です。展示や発表の場所は美術室や体育館など校内のあちこちにあるので、長い距離を移動することに負担を感じる方がいると思います。具体的な経路の例は、展示や発表の場所が決まってから検討しましょう。それでは、今日の話し合いはここまでですね。

山下さん

ちょっと待ってください。具体的な経路のことについては倉田さんの言うとおりでと思いますが、今回出されたことの中で、まだ、どうするか決まっていないことがあります。

A

場面③

【話し合いの一部】

〈議題〉
地域とのつながりを大切にした文化祭にするために

一 生徒会が地域で行っていることについての展示
・高齢者向けの施設での交流会の様子
・地域の清掃活動の様子

二 展示や発表を見に来てくださる方への配慮

倉田さん 西野さん

山下さん

「生徒会が地域で行っていることについての展示」はこの二つにします。次は、「展示や発表を見に来てくださる方への配慮」について考えましょう。

三 場面③の A で山下さんは、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを述べようとしています。あなたなら、どのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」とは何かを明確にして書くこと。

条件2 条件1で示した「どうするか決まっていないこと」を解決する具体的な案を考えて書くこと。

全国 中3 国語

解答類型と反応率 (1 段目: 山梨県 (公立) の反応率 (%), 2 段目: 全国 (公立) の反応率 (%))

(正答の条件)

次の条件を満たして解答している。

- ① 話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」とは何かを明確にして書いている。
- ② ①で示した「どうするか決まっていないこと」を解決する具体的な案を書いている。
- ③ 実際に話すように書いている。

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
2三	話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く	64.7	0.0	9.5	0.5					19.2	6.1
		60.4	0.0	9.4	0.6					20.6	8.9

類型 1 条件①, ②, ③を満たして解答しているもの (正答)

(例) 校内にある「土足禁止」という掲示物の表現をどのように直すのかについてです。私は、文化祭に来てくださる方に対しては、「ここで靴を脱いでお上がりください。」のように直すとよいと思います。皆さんはどう思いますか。

類型 3 条件①, ③を満たし, 条件②を満たさないで解答しているもの

(例) 「土足禁止」という掲示物の表現をどうするかについてです。

→ 「土足禁止」の丁寧な表し方や今後の話合い方などを考えて書いていない。

類型 99 上記以外の解答

(例) 具体的な経路の例についても考えましょう。

→ 話合いの話題や方向性を適切に捉えることができていない。

分析と課題

話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことに課題が見られる。

「土足禁止」をどのような表現に言い換えるかなど, 自分の考えを具体的に書けない誤答 (類型 3) の反応率が 9.5% である。また, 3 つある条件のうち 1 つしか満たしていない誤答 (類型 99) の反応率が 19.2% である。

授業改善の
ポイント

話合いの仕方を見直す学習

話合いをする際には, 話題や方向を的確に捉え, 自分の考えをもちながら参加するように指導することが大切である。必要に応じて, 話合いの話題について確認したり, 話合いの経過を捉えたりすることができるように指導したい。

例えば, 司会の進め方や話合いの記録の仕方などを確認した上で, 実際に記録を取りながら話合いを行う学習活動が考えられる。ICT を活用し, 実際に生徒が行う話合いの動画を見て, 司会の役割について考えさせたり, 目指している到達点に向けて取り上げる話題をどのように絞り込めばよいかについて考えさせたりするなど, 話合いの仕方を見直す学習を取り入れたい。

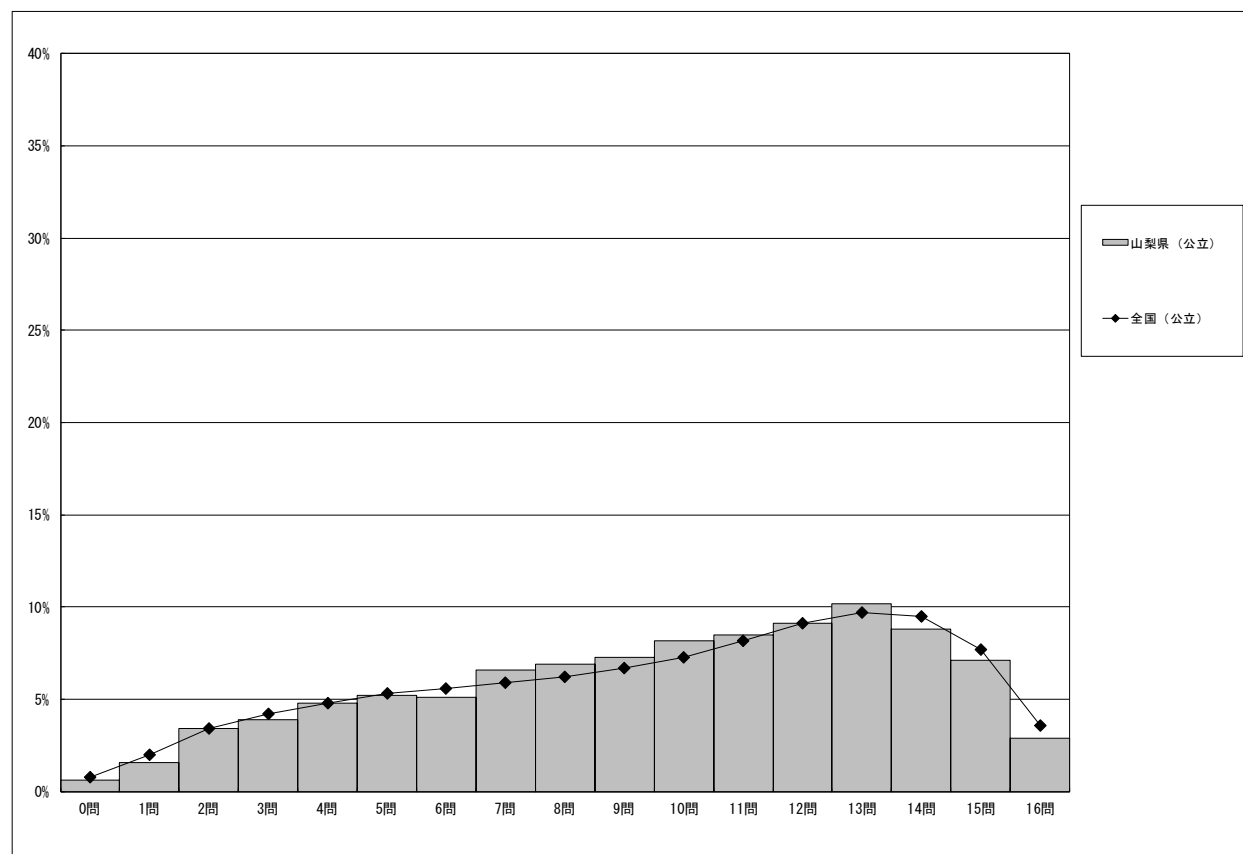
全国 中3 数学

平成 31 年度全国学力・学習状況調査結果 中学校 数学

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
山梨県 (公立)	6,409	9.5 / 16	60	10.0	4.0
全国 (公立)	938,887	9.6 / 16	59.8	10.0	4.2

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)	
			山梨県 (公立)	全国 (公立)
全体		16	60	59.8
学習指導要領の領域	数と式	5	63.1	63.8
	図形	4	73.9	72.4
	関数	3	39.1	40.8
	資料の活用	4	56.5	56.3
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0		
	数学的な見方や考え方	8	51.6	51.0
	数学的な技能	3	61.7	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	5	71.4	71.3
問題形式	選択式	5	59.8	60.3
	短答式	7	65.9	66.6
	記述式	4	48.6	47.1

正答数分布グラフ



全国 中3 数学

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
		数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	山梨県(公立)	全国(公立)	山梨県(公立)	全国(公立)
1	a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ	1(1) ア						○	○			59.7	62.2	0.1	0.2	
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解く	2(2) ウ					○			○		69.0	70.1	4.1	5.1	
3	$\triangle ABC$ を、矢印の方向に $\triangle DEF$ まで平行移動したとき、移動の距離を求める	1(1) イ						○		○		85.7	83.6	0.4	0.7	
4	反比例の表から式を求める			1(1) エ			○			○		46.5	48.9	8.5	10.4	
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める			2(1) ア			○			○		69.5	72.8	2.8	3.3	
6(1)	冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pのy座標と点Qのy座標の差を表すものを選ぶ			2(1) イ、エ			○			○		36.8	38.8	0.2	0.3	
6(2)	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する			2(1) イ、エ			○			○		33.9	34.7	9.9	11.6	
7(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	2(2) ア						○		○		76.3	75.8	4.1	5.2	
7(2)	ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ	2(2) イ						○	○			78.3	77.2	0.2	0.5	
7(3)	四角形ABCDがどのような四角形であれば、 $AF = CE$ になるかを説明する	2(2) ウ					○			○		55.3	53.3	14.2	17.6	
8(1)	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める			1(1) ア				○		○		56.8	57.9	8.5	10.6	
8(2)	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する			1(1) イ			○			○		44.6	40.8	16.6	21.3	
8(3)	図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ			1(1) ア、イ			○			○		55.2	53.6	1.0	1.0	
9(1)	説明をよみ、 $6n + 9$ を $3(2n + 3)$ に変形する理由を完成する	2(1) イ、ウ					○			○		57.5	57.4	7.0	9.5	
9(2)	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する	2(1) イ、ウ					○			○		60.4	59.7	14.2	17.8	
9(3)	連続する4つの奇数の和が $4(2n + 4)$ で表されたとき、 $2n + 4$ はどんな数であるかを選ぶ	2(1) イ、ウ					○			○		69.0	69.6	2.1	1.9	

課題の見られる設問

6 (2)

- 6 健太さんの家では、冷蔵庫の購入を検討しています。健太さんは、冷蔵庫A、冷蔵庫B、冷蔵庫Cについて調べたことを、次のような表にまとめました。

健太さんが作った表

	冷蔵庫A	冷蔵庫B	冷蔵庫C
容量	400 L	500 L	500 L
本体価格	80000 円	100000 円	150000 円
1年間あたりの電気代	15000 円	11000 円	6500 円

健太さんは、冷蔵庫A、冷蔵庫B、冷蔵庫Cについて、使用年数に応じた総費用を考えることにしました。そこで、それぞれの冷蔵庫において、1年間あたりの電気代は常に一定であると、次の式で総費用を求めることにしました。

$$(\text{総費用}) = (\text{本体価格}) + \left(\begin{array}{c} \text{1年間あたりの} \\ \text{電気代} \end{array} \right) \times (\text{使用年数})$$

例えば、冷蔵庫Aを購入して3年間使用するときの総費用は、 $80000 + 15000 \times 3 = 125000$ となり、125000 円です。

- (2) 健太さんの家では、7ページの健太さんが作った表で、容量が500 Lである冷蔵庫Bと冷蔵庫Cのどちらかを購入することになりました。そこで、健太さんとお姉さんは、冷蔵庫を購入して x 年間使用するときの総費用を y 円として、冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用を比べてみることにしました。

健太さん「本体価格は冷蔵庫Cの方が高いので、最初のうちは冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が多いね。」
 お姉さん「1年間あたりの電気代は冷蔵庫Cの方が安いので、使い続けると冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が少なくなるね。」
 健太さん「それなら、2つの冷蔵庫の総費用が等しくなるときがあるね。」

冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなるおおよその使用年数を考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。

ア それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式

イ それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフ

全国 中3 数学

解答類型と反応率 (1 段目: 山梨県(公立)の反応率(%), 2 段目: 全国(公立)の反応率(%))

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
6 (2)	冷蔵庫 B と冷蔵庫 C について、式やグラフを用いて、2 つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	8.0	4.1	5.2	0.9	18.5	10.5	12.2	9.6	4.3	1.2
		10.3	5.1	5.7	0.7	15.7	10.8	10.8	8.6	3.5	0.9
		11	12	13	14	15	16	17	18	99	無解答
		7.7	6.9							0.9	9.9
		7.0	8.3							0.9	11.6

(正答の条件)		
アを選択し、次の(a)について記述しているもの、または、イを選択し、次の(b)について記述しているもの。		
(a) 方程式を解いて、使用年数の値を求めること。		
(b) グラフの交点の座標から、使用年数の値を読み取ること。		
1	ア (a)について記述しているもの。	◎
2	ア (a)についての記述が十分でないもの。	
3	(正答例)	
4	・ 連立方程式を解く。	○
5	・ 方程式をつくり、使用年数の値を求める。	
6	(a)について、方程式を用いることのみを記述しているもの。	
7	(a)について、使用年数の値を求めることのみを記述しているもの。	
8	上記以外の解答	
9	無解答	
10	イ (b)について記述しているもの。	◎
11	(b)についての記述が十分でないもの。	
12	(正答例)	○
99	・ 交点の座標を読み取る。	
0	(b)について、グラフを用いることのみを記述しているもの。	
	(b)について、使用年数の値を読み取ることのみを記述しているもの。	
	上記以外の解答	
	無解答	
	上記以外の解答	
	無解答	

分析と課題

アを選択した場合の正答の条件は、「方程式を解いて、使用年数の値を求めること。」について記述することである。

解答類型 5 の反応率は 18.5% である。解答類型 5 の具体的な例としては、「(総費用) = (本体価格) + (1 年間あたりの電気代) × (使用年数) で求められる。」のような解答がある。このように記述した生徒は、総費用を求めるための与えられた式を記述しているが、それを用いて冷蔵庫 B や C についての方程式をつくることや、その使い方として方程式を解いて、使用年数の値を求めることを表現することができなかつたと考えられる。

授業改善のポイント

問題解決のために用いた方法について、「用いるもの」や「用い方」のいずれか一方の説明にとどまらず、「用いるもの」とその「用い方」の両方を指摘し、的確に説明できるように指導することが大切である。

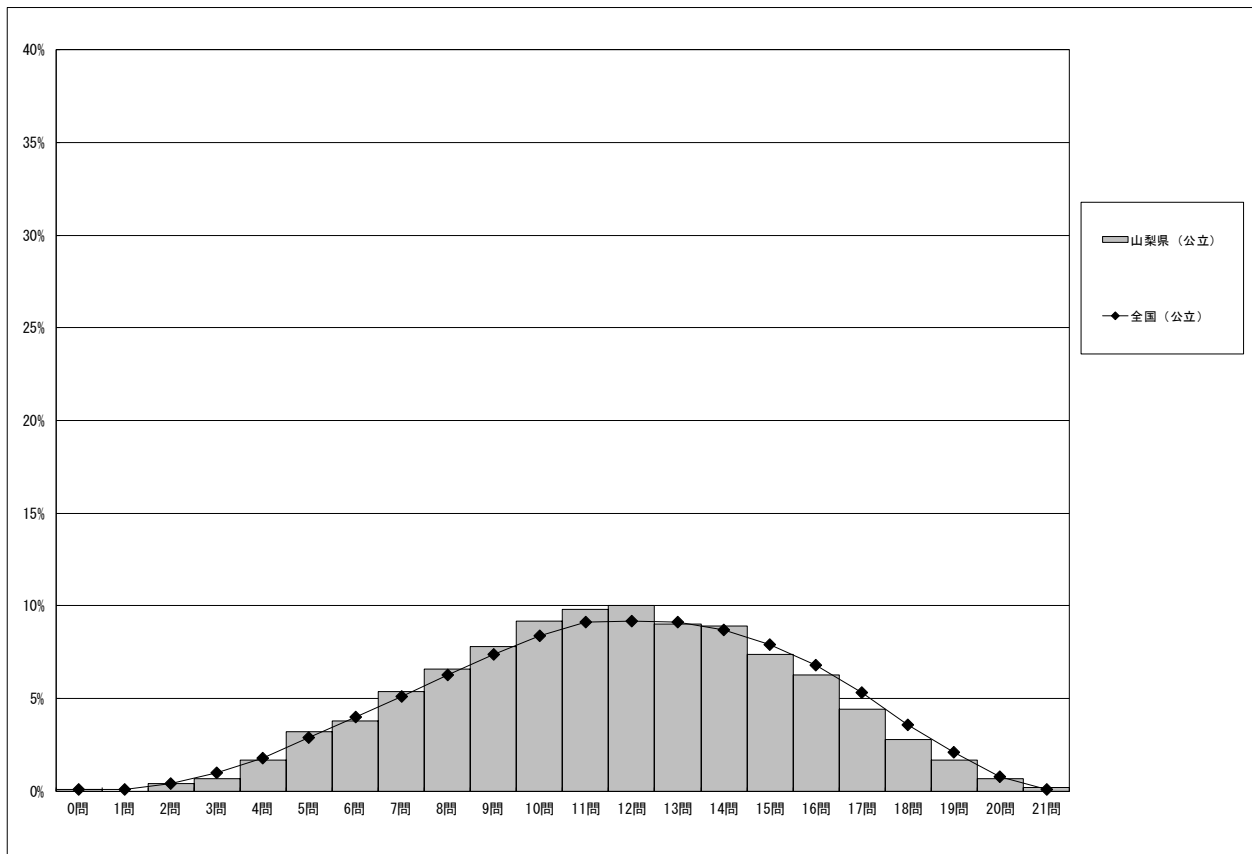
全国 中3 英語

平成 31 年度全国学力・学習状況調査結果 中学校 英語

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
山梨県 (公立)	6,409	11.6 / 21	55	12.0	3.8
全国 (公立)	938,888	11.8 / 21	56.0	12.0	3.9

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)	
			山梨県 (公立)	全国 (公立)
全体		21	55	56.0
学習指導要領の領域	聞くこと	7	67.9	67.9
	話すこと (参考値)			
	読むこと	6	55.4	55.6
	書くこと	8	43.6	45.8
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	0		
	外国語表現の能力	1	1.5	1.8
	外国語理解の能力	6	44.7	44.7
	言語や文化についての知識・理解	14	63.4	64.7
問題形式	選択式	13	71.1	71.4
	短答式	5	42.7	45.2
	記述式	3	6.5	6.8

正答数分布グラフ



全国 中3 英語

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
		聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	山梨県(公立)	全国(公立)	山梨県(公立)	全国(公立)
1(1)	ある状況を描写する英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	(7) (4)						○	○			90.7	91.1	0.1	0.2	
1(2)	教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する	(7) (4)						○	○			88.8	88.6	0.1	0.1	
1(3)	外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	(7) (4)						○	○			73.3	72.3	0.1	0.2	
1(4)	家での会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	(7) (4)						○	○			60.9	61.8	0.1	0.2	
2	イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える	(4)						○	○			73.2	71.8	0.1	0.2	
3	天気予報を聞いて、ピクニックに行くのに最も適する曜日を選択する	(4)						○	○			81.5	82.0	0.1	0.2	
4	来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く	(9)						○		○		7.0	7.6	39.3	42.3	
5(1)	ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句として最も適切なものを選択する			(4)				○	○			77.4	79.4	0.1	0.2	
5(2)	ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する			(4)				○	○			75.6	74.4	0.1	0.2	
5(3)	月ごとの平均気温を表したグラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択する			(4)				○	○			72.9	73.1	0.3	0.4	
6	発表活動のためにまとめられた100円ショップについての文章を読んで、話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選択する			(9)				○	○			62.7	62.9	0.3	0.4	
7	チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する			(9)				○	○			32.6	32.8	0.8	1.0	
8	食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く			(4)				○		○		11.0	10.9	24.1	27.9	
9(1)①	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する			(7) (4)				○	○			78.1	79.9	0.2	0.3	
9(1)②	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する			(7) (4)				○	○			55.9	58.2	0.5	0.5	
9(2)①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く			(7) (4)				○	○			73.2	73.6	3.4	4.4	
9(2)②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く			(7) (4)				○	○			29.0	28.9	10.2	12.6	
9(3)①	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く			(7) (4)				○	○			46.1	53.5	6.0	6.4	
9(3)②	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く			(7) (4)				○	○			30.6	32.9	8.1	9.3	
9(3)③	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く			(7) (4)				○	○			34.5	37.4	8.5	10.5	
10	学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く			(4)				○		○		1.5	1.8	6.6	8.3	

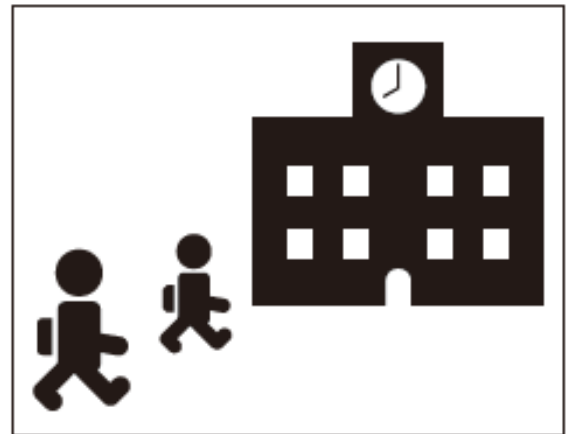
課題の見られる設問

- 10 海外のある町が、外国人旅行者にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）のうち、どちらがよいかウェブサイトで意見を募集しています。どちらかの案を選び、2つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で書きなさい。

【 A 】



【 B 】



※ 短縮形 (I'm や don't など) は1語と数え、符号 (, や ? など) は語数に含めません。

(例) No. I'm not. 【3語】

全国 中3 英語

誤答類型と反応率

(1 段目: 山梨県(公立)の反応率(%), 2 段目: 全国(公立)の反応率(%))

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
10	学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く	0.0	0.5	1.0	31.1	3.8	5.2	6.6	32.9	12.2	6.6
		0.1	0.5	1.2	32.1	4.0	5.4	5.2	29.5	13.8	8.3

分析と課題

正答は、以下の条件を満たして解答しているものである。

- ①どちらの案がよいか、1つ選んで意見を書いている。
- ②選んだ理由等について、2つの案に触れながら書いている。
- ③25語以上の英語で書いている。

条件①②③を満たして解答しているが、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがあるもの(解答類型4)の反応率が31.1%であることから、自分の考えについて書きたいことはあるが、語や文法事項等を正しく活用して文章を書くことができていないと考えられる。

しかし、解答類型1～7の反応率が48.2%であり、全体の約50%の生徒が25語以上の文章を書くことができおり、無解答率も6.6%と全国平均よりも1.7%低いことから、自分の考えを何とか伝えようとする意欲や粘り強さは全体的に見られた。

授業改善の ポイント

- ・テーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができるようにする。その際には、伝える相手・場面・状況などを明確にする。また伝える内容についても、「～について紹介する」「2つを比較して自分の意見を述べる」など、様々な題材を扱う。
- ・「話して書く」「読んで書く」等の領域を統合した指導を行う。
- ・英文を読み合い、よりよく読み手に伝わるように書く指導を行う。
- ・書く内容を想起するための指導を行う。
例：ウェビングを使うなどしてアイディアを出す
自分の考えや気持ちをペアやグループで伝え合う
- ・スモールトークでのやり取りをまとめるなど、書く活動を行うことで、言語材料の理解を深める。

全国 中3 英語「話すこと」

文部科学省公表資料より抜粋

「話すこと」について ※「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計とは別に集計（参考値）

④ 話すことについては全体的に課題は多く、特に即興でやり取りすることに課題がある。

☆ 書くこと、話すことのどちらにおいても、問われていることが分かれば、自分の考えなどをなんとか伝えようとする粘り強さや意欲が見られる。

④ 大問2 即興でやり取りをする 【話すこと】

ユイコとアラン先生のやり取りを聞き、その内容を踏まえて会話が続けていくように即興で質問をすることができるかをみる問題

アラン先生が見せている写真



(スクリプト)

A: Look at this picture of my family.

This is my favorite picture.

Y: Nice! Who is she?

A: Oh, she is my mother, Nancy. And he is my brother, Tom. He can cook very well.

Y: I see. What kind of work does your mother do?

A: She is a teacher.

Do you have any other questions about them?

・二人のやり取りを踏まえた内容（写真の人物に関連した質問）を質問できている。

正答率: 10.5%

即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝える言語活動が行われていたと思っている生徒の方が正答率が高い。(P.20参照)

・無解答、あるいは以下のような解答: 48.5%

(解答例) ・ what's
・ cooking

このような解答は、何を問いかけているかが分かっていないか、いつ自分の発話機会が訪れるかわからない状況で、話されているやり取りを聞きながら、即興で応じることに慣れていないと考えられる。

④ ☆ 大問3 まとまりのある内容を話す 【話すこと】

海外のテレビ局の取材を受けるという場面で、自分の夢とそのために努力していることについて話すことができるかをみる問題

話してほしい内容

①、②のどちらも話してください

①あなたの将来の夢、または、将来やってみたいこと

②その実現のために頑張っていること、やるべきこと



正答率: 45.8%

スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動がよく行われていたと思っている生徒（正答率54.6%）とそう思っていない生徒（正答率32.1%）で22.5ポイントもの差がある。(P.20参照)

正答を含め、解答のうち60.5%が①を満たしており、約6割の生徒がやりたいことや夢を英語で答えられている。

また、本問は無解答率が「話すこと」の問題の中で最も低く（4.6%）、生徒たちの話そうとする意欲がうかがえる。

〈指導改善に向けて（今後3年を見通して）〉

○新学習指導要領（平成30年度から移行期間開始）に示した取組を着実に実施する。

- ・一文一文を聞き取る・読み取るだけでなく、目的・場面・状況等に応じて聞く・読む言語活動を充実させる。
- ・文法事項等を言語活動の中で理解し定着させる（和文に対応した穴埋めや語順整序だけではなく）。
- ・即興のやり取りをはじめとして、話すこと・書くことの発信の言語活動を充実させる。

○生徒の英語学習の意欲を高める。

- ・授業を実際のコミュニケーションの場面とする。
- ・生徒の関心に応じた話題を取り上げる。
- ・学習成果を適切に評価することで、学習意欲の向上を図る。 など

山梨県学力把握調査



1 調査の概要

○目的

- ・生徒の学習の状況を把握するため、調査を実施し、結果の分析を通して、学習内容の不十分な理解を解消するなど、きめ細かな指導に役立てる。
- ・授業における指導方法や学校、家庭、地域における学習環境の改善に資する。

○調査の対象等

実施学年	実施生徒数	対象教科	調査問題の範囲
中学校第2学年	6,299人	国語・数学・英語	中学校第1学年までに学習した内容

○調査日時

実施日	実施時間		
	国語	数学	英語
平成31年 4月18日(木)	45分	45分	45分

※全国学力・学習状況調査と同一日に実施

○問題作成に関して

- ・授業改善の進捗状況を具体的に把握するために、山梨県学力把握調査や全国学力・学習状況調査結果において、経年的に課題とされている設問（正答率が低い設問、無解答率が高い設問、誤答に特徴がみられる設問）を基に調査問題を作成した。
- ・過去調査（山梨県学力把握調査 H23～H30、全国学力・学習状況調査 H19～H30）で出題された設問を基に作成した問題が全体の約二分の一、その他が新たに作成した問題である。

2 教科に関する結果

○全体の概要

- ・各教科の平均正答率は約6割である。
- ・改善の傾向にある内容がみられた。
- ・経年的に正答率が低い設問や無解答率が高い設問、誤答に特徴がみられる設問があり、今後も継続した授業改善への取組が必要である。

○各教科の概要

- ・国語では、根拠を明確にして自分の考えを書くことはできている。一方で、資料を読み内容を正確に捉えることに課題がある。
- ・数学では、空間における図形の位置関係を的確に捉えることができている。一方で、数量の関係を文字式に表したり、式の意味を読み取ったりすることについて課題がある。
- ・英語では、身近な話題について聞き取ることはできている。一方で、日常的な話題についての英文を読んで、必要な情報を読み取ることに課題がある。

3 結果を踏まえた取組

①結果分析・公表

- ・管理職研修会（6月4日：校長，11日：教頭 実施）
各学校の管理職に向け，課題となる設問を基にした授業改善の取組について，学校で組織的な対応が図られるよう具体例を示した。
- ・学力調査を踏まえた授業改善のための説明会
（6月18日：小学校，20日：中学校 実施）
教諭等に向け，授業改善のための説明会を実施し，授業改善への具体例を示した。
- ・学力向上フォーラム2019（8月20日）
調査の分析結果を公表し，本県生徒の学力調査における結果と課題を共有する。
- ・山梨大学との連携
山梨大学と連携し，山梨県学力把握調査及び全国学力・学習状況調査結果について，専門的見地から助言を得，分析や各種資料に反映する。（昨年度からの取組）

②やまなしスタンダードの推進

- ・「やまなしスタンダード ～授業づくりの7つの視点～」の基，県全体で授業改善の取組を進める。特に，「②話し合い，討論，発表などの言語活動を効果的に取り入れている」という視点を具現化するものとして，「年間を通じて意識したい授業改善の視点」という授業改善例を明示する。

③学校訪問

- ・各学校が学力調査の結果を基にしたPDCAサイクルを確立する等の組織的な対応の進捗状況を把握する。授業観察や研究会での様子を踏まえ，適切な指導を行う。

④研究と研修の一体化

- ・昨年度から，各種調査結果の分析を総合教育センターが中心となり，行っている。分析結果を研修等に反映させ，各学校の授業改善に向けた取組につなげる。

⑤「ピックアップ問題」の作成と配信

- ・山梨県学力把握調査及び全国学力・学習状況調査の結果を受け，課題のある学習内容についてのピックアップ問題を作成し，確実な学力の定着を目指す。

⑥各事業との連携した取組

- ・家庭学習習慣化促進事業における家庭学習の推進

課題の見られる設問

1 - 二

1

次の一から六までの問いに答えなさい。

一 次の1から3までの文中の——線部のひらがなを漢字に直し、楷書かいしよでていねいに書きなさい。

1 てらん会てらんかいで美術作品を見る。

2 転んで足をふしようふしようした。

3 落ちていたゴミを手でひろひろう。

二 次の1から3までの文中の——線部の漢字の正しい読みをひらがなでていねいに書きなさい。

1 留学資金を貸与かいくする。

2 専門家からご意見を承うける。

3 厳しい現実から目を背そむける。

解答類型と反応率

設問番号	設問の概要	解答類型 (下線が正答, 9は1~6以外の解答)							無解答
		1	2	3	4	5	6	9	
1-1	漢字を書く (てんらん会で美術作品を見る)	47.2	17.1	11.1				14.7	9.8
1-2	漢字を書く (転んで足をふしゅうした)	42.0	24.4	8.9				14.3	10.4
1-3	漢字を書く (落ちていたゴミを手でひろう)	72.3	20.1					4.0	3.6
1-1	漢字を読む (留学資金を貸与する)	24.4	0.3	32.0				26.7	16.5
1-2	漢字を読む (専門家からご意見を承る)	62.3						28.2	9.4
1-3	漢字を読む (厳しい現実から目を背ける)	87.9						11.0	1.1

- 1-1 類型2 (「展」だけ正しく解答している) (例)「覧」の「見」を「貝」と書いている
 類型3 (「覧」だけ正しく解答している) (例)「展」の8画目の前に左払いを書いている
- 1-2 類型2 (「負」だけ正しく解答している) (例)「傷」の一部が「易」になっている
 類型3 (「傷」だけ正しく解答している)
- 1-3 類型2 (「捨」と解答している)
- 1-1 類型2 (「たい」だけ正しく解答している) (例)「与」を「あたえ」と読んでいる
 類型3 (「よ」だけ正しく解答している) (例)「貸」を「かす」と読んでいる

分析と課題

文脈に即して漢字を正しく書いたり読んだりすることに課題が見られる。無解答率が高いものもある。

授業改善のポイント

語彙指導の充実

漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得できるように指導することが大切である。その際、例えば漢字の構成要素である「へん」や「つくり」に注目し、読みを類推できるようにすることも考えられる。

「書くこと」「読むこと」の指導とともに、「話すこと・聞くこと」の指導においても、機会があるごとに漢字を意識するようにし、定着を図ることが必要である。

新学習指導要領では、語彙指導の改善・充実が求められている。日常の学習や生活の中でも、辞書を活用して、漢字を正しく読んだり書いたりする態度と習慣を養うことが大切である。

課題の見られる設問 4三

4 【資料A】は伝記「大村智物語 ノーベル賞への歩み」の前書きとして大村先生が書いた「若き日の君たちに伝える」という文章の一部です。【資料A】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【資料A】

略

(大村智「若き日の君たちに伝える」による)

三 〰〰線部「研究をするときは、人の真似は絶対にしないと自分に言い聞かせ」とありますが、大村先生がそのように言い聞かせているのはなぜですか。次の□は、大村先生がこのように言い聞かせてきた理由を説明した文です。【資料B】の言葉を使って、□に当てはまる言葉を書きなさい。

人の真似をしないことで

から。

【資料B】

略

(馬場錬成「大村智物語 ノーベル賞への歩み」による)

解答類型と反応率

(正答の条件)

次の条件を満たして書いている。

- ① 「人の真似をしないことで」に続けて書いている。
- ② 「から。」につながるように書いている。
- ③ 以下の a, bのうち、一つ以上の内容を適切に取り上げて書いている。
 - a 人を超えるチャンスが生まれる。
 - b 新しい発見に結びつく場合が多い。

設問番号	設問の概要	解答類型 (下線が正答, 9は1~6以外の解答)							無解答
		1	2	3	4	5	6	9	
4三	「人の真似は絶対にしない」と言い聞かせてきた理由を説明する文の一部を書く	<u>75.3</u>	12.4	5.6	0.5			1.9	4.3

類型1 条件①, ②, ③を満たして解答しているもの (正答)

類型2 条件①, ②を満たし, 条件③を満たさないで解答しているもの

(例) (人の真似は絶対にしないことで) 誰にも見つけられなかったものに出会える (から。)

→【資料B】の言葉を用いていない。

類型3 条件②, ③を満たし, 条件①を満たさないで解答しているもの

(例) (人の真似は絶対にしないことで) 人と同じことをやっていると, その人と同じレベルで止まる (から。)

類型4 条件①, ③を満たし, 条件②を満たさないで解答しているもの

分析と課題

【資料A】と【資料B】との情報を関連付けて読み, 必要な情報を得ることができるかを問う設問である。【資料B】の中から, 「人の真似は絶対にしないと自分に言い聞かせ」た理由として, ふさわしい部分を探して取り上げることに課題のある類型2の反応率が12.4%である。

授業改善のポイント

目的に応じて
複数の資料から
情報を得る

第1学年「読むこと」カ「本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け, 目的に応じて必要な情報を読み取ること」に関連する。

複数の資料から情報を取捨選択し, それらを基に自分の考えをもつ活動を設定したい。その際, それぞれの資料に書かれていることを正確に理解した上で, 資料相互の関連性を整理したり, それらの資料と自分の考えとのつながりを確認したりする必要がある。また, 自分の考えを深めたり広げたりするためには, 学校図書館などを活用して, 不足している情報などを主体的に得る機会を設けることが大切である。

県把握 中2 数学

課題の見られる設問 1 (5)

赤いテープと白いテープの長さについて、次のことが分かっています。

赤いテープの長さは a cm です。

赤いテープの長さは、白いテープの長さの $\frac{4}{7}$ 倍です。

白いテープの長さは何cmですか。 a を用いた式で表しなさい。

解答類型と反応率

設問番号	設問の概要	解答類型 (下線が正答, 9は1~8以外の解答)									無解答
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1(5)	赤いテープの長さが a cm で、白いテープの長さの $\frac{4}{7}$ 倍のとき、白いテープの長さを a を用いた式で表す	<u>22.8</u>	0.0	52.1						14.1	11.1

分析と課題

正答は、「 $\frac{7}{4}a$ (cm)」である。

「 $\frac{4}{7}a$ (cm)」と解答した解答類型3の反応率は52.1%である。「倍」という表現が含まれることから、「 $a \times \frac{4}{7}$ (cm)」と立式した生徒がいると考えられる。

授業改善のポイント

関係を図に表したり、具体的な数や言葉を使った式を利用したりして関係を捉え、その関係を文字式に表すことができるように指導することが大切である。

課題の見られる設問 5 (3)

体育委員会は、全校生徒の体力向上のために、1週間で420分（1日あたり60分）運動することを目標にしようと考えています。そこで、体育委員会では、全校生徒の1週間の総運動時間を調べるアンケートを実施しました。体育委員の若菜さんは、全校生徒のうち女子の結果を、下の度数分布表にまとめました。

1週間の総運動時間の度数分布表（女子）

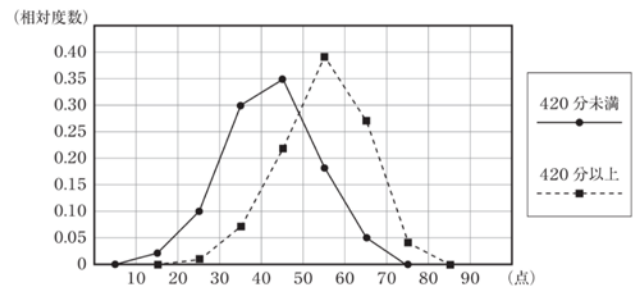
階級(分)	度数(人)
以上 未満 0 ~ 300	55
300 ~ 600	12
600 ~ 900	26
900 ~ 1200	29
1200 ~ 1500	15
1500 ~ 1800	6
1800 ~ 2100	2
合計	145

若菜さんは、1週間の総運動時間が420分未満と420分以上の女子では、体力テストの合計点に違いがあるのではないかと考えました。そこで、420分未満と420分以上の女子で分けて、体力テストの合計点をまとめた度数分布表をもとに、相対度数を求め、相対度数の度数分布多角形（度数折れ線）に表しました。

体力テストの合計点の度数分布表

階級(点)	420分未満		420分以上	
	度数(人)	相対度数	度数(人)	相対度数
以上 未満 10 ~ 20	1	0.02	0	0.00
20 ~ 30	6	0.10	1	0.01
30 ~ 40	18	0.30	6	0.07
40 ~ 50	21	0.35	19	0.22
50 ~ 60	11	0.18	33	0.39
60 ~ 70	3	0.05	23	0.27
70 ~ 80	0	0.00	3	0.04
合計	60	1.00	85	1.00

若菜さんが作った度数分布多角形



若菜さんが作った度数分布多角形から、「1週間の総運動時間が420分以上の女子は、420分未満の女子より体力テストの合計点が高い傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、若菜さんが作った度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

解答類型と反応率

設問番号	設問の概要	解答類型（下線が正答、9は1~8以外の解答）									無解答
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
5(3)	「420分未満より420分以上の女子の方が、合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	<u>6.4</u>	<u>9.5</u>	1.9	1.3	6.8	6.5	0.3		48.2	19.0

分析と課題

正答の条件は、次の (a), (b) の条件を満たしているものである。

- (a) 420分未満の度数分布多角形よりも420分以上の度数分布多角形の方が右側にあること。
- (b) 1週間の総運動時間が420分以上の女子は、420分未満の女子より体力テストの合計点が高い傾向にあること。

正答率は15.9%であり、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

授業改善のポイント

2つの資料の分布の比較から検討し判断する場面を設定することが考えられる。なお、総度数が異なる2つの資料を扱う際には、相対度数を用いると階級ごとの比較が可能になることや、相対度数を使った度数分布多角形を用いると2つの資料の分布の特徴を捉えやすくなることを確認する場面を設定することも考えられる。その上で、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する活動を充実することが大切である。

県把握 中2 英語

課題の見られる設問 10

次の表はある学級の午前中の時間割です。時間割の内容と合っている英文を、下のアからエの中から2つ選び、その記号を書きなさい。

	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
1	Japanese	*social studies	math	science	English
2	English	math	English	Japanese	science
3	music	Japanese	moral education	art	*social studies
4	science	English	Japanese	math	*P.E.
Lunch Time					

- ア The students have science class on Friday morning.
 イ The students have Japanese class after art class on Thursday morning.
 ウ On Tuesday morning, the students study math and English, but they don't study music.
 エ The students don't study English on Monday morning.

解答類型と反応率

設問番号	設問の概要	解答類型 (下線が正答, 9は1~7以外の解答)									無解答
		1	2	3	4	5	6	7	9	0	
10	時間割を見て、その内容を表す文を選択する	<u>35.4</u>	27.1	25.1	0.0				11.2	1.0	

分析と課題

正答は、ア ウ (完答) である。

簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を正確に読み取ることに課題がある。

授業改善のポイント

日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものを読む活動においては、目的に応じて必要な情報を読み取ることができるようにするため、指導の工夫を行う。

- 例) ・ 広告, パンフレット, 予定表, 電子メール, 短い文章など, 日常的な話題に関する様々なテキストを教材として扱う。
 ・ 発問を工夫する。
 ・ 生徒が何度もテキストに触れるようにする。
 ・ 必要な情報を読み取るのか, 概要や要点を捉えるのかなど目的に応じて, テキストへの着目のさせ方を工夫する。

課題の見られる設問 6 (1)

美香(Mika)のお母さんは学校で働いています。
Mika's mother () at school.

解答類型と反応率

設問番号	設問の概要	解答類型 (下線が正答, 9は1~7以外の解答)									無解答
		1	2	3	4	5	6	7	9	0	
6(1)	文にふさわしい動詞を書く	<u>18.6</u>	24.6	1.7	3.2	2.8	5.0			25.9	18.1

分析と課題

正答は, **works** である。

work (解答類型2) の反応率が24.6%であることから, 3人称単数現在形が定着していないことが考えられる。

「上記以外」(解答類型9) の反応率が25.9%, 無解答率が18.1%であることから, 「働く」という日本語に対応する適切な英語が書けていないことが考えられる。

課題の見られる設問 6 (2)

アン(Ann)は甲府に住んでいますか。
() Ann live in Kofu?

解答類型と反応率

設問番号	設問の概要	解答類型 (下線が正答, 9は1~7以外の解答)									無解答
		1	2	3	4	5	6	7	9	0	
6(2)	文にふさわしい動詞を書く	<u>35.9</u>	3.3	1.2	19.5					31.5	8.6

分析と課題

正答は, **Does** である。

be 動詞 (解答類型4) の反応率が19.5%であることから, 一般動詞と **be** 動詞の区別ができていないことが考えられる。

「上記以外」(解答類型9) の反応率が31.5%であることから, 音ではわかっているがつづりがわからないため書くことができないことや, 疑問詞(What, Where)を解答していた誤答が多いことから, 3人称単数現在時制の疑問文が定着していないことが考えられる。

課題の見られる設問 12 (3)

誠は英語の授業で、カナダの姉妹校の生徒に、テレビ電話で自分の家族を紹介することになりました。誠は絵美 (Emi) について紹介をします。This is Emi. という文に続けて、(1) から (3) の情報をすべて用いて、誠になったつもりで、絵美 (Emi) を紹介する英文を、解答用紙の She に続けて完成させなさい。

This is Emi.

(1) 誠との関係	my mother
(2) 好きなスポーツ	soccer
(3) 車の有 (○) 無 (×)	×

解答類型と反応率

設問番号	設問の概要	解答類型 (下線が正答, 9は1~7以外の解答)									無解答
		1	2	3	4	5	6	7	9	0	
12(3)	与えられた情報を用いて、人を紹介する英文を書く	<u>15.7</u>	<u>15.2</u>	26.2	0.7	6.0	6.5	0.9	18.6	10.2	

分析と課題

正答例は、[She] doesn't have a car(.)である。

指定された情報を用いて解答しているが、一般動詞の否定形に誤りがあるものを解答 (解答類型 3) の反応率が 26.2% である。3人称単数現在時制であることを踏まえて、適切に動詞を活用させて文を書くことができていないと考えられる。

「上記以外」(解答類型 9) の反応率が 18.6%、無解答率が 10.2% であることから、与えられた情報を用いて一般動詞の否定文を書くことが理解できていない、もしくは与えられた情報についての文を書くために必要な語彙や表現が身に付いていないと考えられる。

授業改善のポイント

特定の言語材料 (3人称単数現在形など) のみを用いて文を書かせるだけでなく、目的・場面・状況のある言語活動において、様々な知識を活用させて文を書かせることを授業の中に位置付けるようにする。

- ・やり取りなど口頭で表現したことを書かせる。
- ・生徒同士で書いたものを互いに読み合い、誤りに気付かせ、修正を加える。
- ・3人称の言語材料について、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりして、様々な場面で繰り返し使用するようにする。

など、伝えたい内容が読み手に伝わるように正確に文を書くことができるように指導することが大切である。



山梨県公立小中学校 教育課程実施状況調査

2019年度山梨県教育課程実施状況調査 結果の概要

山梨県総合教育センター
山梨県教育庁義務教育課

1 調査の目的

小学校及び中学校における学習指導要領に基づく教育課程の実施状況について、学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の実現状況を調査することで、指導上の課題を明らかにして、今後の学校における学習指導の改善に資する。

2 調査の対象等

総合教育センターにおいて、相当学年の児童生徒の約1割になるよう無作為に抽出した。

対象学年	校数	児童生徒数	調査教科	出題範囲
小学校6年	19校	627人	社会	小学校5年生の学習内容から出題
		626人	理科	小学校5年生の学習内容から出題
中学校3年	9校	640人	社会	中学校2年生の学習内容から出題
		642人	理科	中学校2年生の学習内容から出題

3 調査の日時

区分	小学校	中学校
実施日	平成31年4月11日（木）から4月26日（金）までの期間に学校ごとに実施	
調査教科 (実施時間)	社会（40分） 理科（40分）	社会（45分） 理科（45分）

4 教科の主な結果

校種・学年・調査	設問数	平均正答率（県）%	平均正答率（全国）%	県－全国
小・6・社会	30問	61.8	65.3	-3.5
小・6・理科	32問	59.9	59.9	±0
中・3・社会	29問	56.8	56.3	+0.5
中・3・理科	34問	54.2	55.9	-1.7

5 全体的な傾向の分析・考察

今回の調査では、小学校の社会と中学校の理科が全国の平均正答率を下回っているが、小学校の理科は全国と同じ正答率であり、中学校の社会は全国の平均正答率を上回っている。

小学校社会では、時間内に最終問題（記述問題）までたどりつけなかった児童がいると思われる点、小学校理科では「方位名を書く問題」「誤りを説明する問題」において課題が見られる。中学校社会では「近世の日本」の定着に課題があり、中学校理科では「気象とその変化」に課題が表れている。今回の調査結果を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるように授業改善を進めていく必要がある。

6 今後の予定

総合教育センターのHPに本資料を掲載する。また、センター研究協力校において、課題点に着目した授業実践を行う。総合教育センターにおける社会科及び理科研修会で改善のポイントを取り上げる。

2019年度 調査結果と授業改善のポイント〔小学校・社会〕

6年生の社会科について、児童の平均正答率は61.8%で、全国平均の65.3%を3.5ポイント下回っている。昨年度に比べ1.2ポイント全国平均との差が小さくなっている。

「基礎」が3.3ポイント、「活用」が全国平均を4.2ポイント下回っている。

問題の内容別正答率では、すべての内容で全国平均を下回る結果となっている。特に、「情報産業や情報化社会」（-6.9ポイント）に課題が見られる。

評価の観点別の平均正答率では、「社会的な思考・判断・表現」が5.2ポイント全国平均を下回っているほか、すべての観点で全国平均を下回っている。

出題形式では、「短答式」が全国平均を7.9ポイント下回っているなど、すべての形式で全国平均を下回っている。

対象児童数	設問数	平均正答率（県）%	平均正答率（全国）%	全国との差
627人	30問	61.8	65.3	-3.5

種別		対象設問数	平均正答率（県）%	平均正答率（国）%	全国との差	
問題の内容	基礎・活用	教科全体	30	61.8	65.3	-3.5
		基礎	24	61.2	64.5	-3.3
		活用	6	64.2	68.4	-4.2
	領域	国土の自然などの様子	9	61.4	65.0	-3.6
		農業や水産業	7	66.0	68.4	-2.4
		工業生産	11	60.4	63.4	-3.0
情報産業や情報化社会		3	58.5	65.4	-6.9	
評価の観点	社会的な思考・判断・表現	11	60.3	65.5	-5.2	
	観察・資料活用の技能	19	62.4	66.6	-4.2	
	社会的な事象への関心・意欲・態度	9	58.4	62.7	-4.3	
	社会的な事象についての知識・理解	22	60.9	63.9	-3.0	
解答形式	選択式	24	61.7	64.6	-2.9	
	短答式	4	56.0	63.9	-7.9	
	記述式	2	75.5	75.7	-0.2	

①
②
①
②

【設問ごとの定着状況】

△：全国平均正答率を上回っている問題 ▼：全国平均正答率を下回っている問題

〈世界の中の国土〉

▼ 赤道が通っている大陸を、選択肢から選ぶ [選択] 〈知〉

〈日本の国土の人々のくらし〉

① △ 国土の地形について説明する文の空欄部分を、選択肢から選ぶ [選択] 〈知〉

〈日本の農業と水産業〉

① △ 米の生産がさかんな地域について、資料を読み、選択肢から選ぶ [選択] 〈技〉

② △ 米作りの機械化による変化について、複数の資料を読み取り、記述する [記述] 〈思〉

〈工業生産と工業地域〉

①② ▼ 工業地帯・工業地域の立地について説明する文の空欄2カ所に、それぞれ漢字1文字を書く [短答] 〈思〉

〈わたしたちの生活と情報〉

▼ 身のまわりのメディアをまとめた表の空欄に、漢字2文字を書く [短答] 〈知〉

〈わたしたちの生活と環境〉

① △ 森林を守るための間伐について説明する正しい文を選択肢から選ぶ [選択] 〈知〉

【正答率の高い設問】 上位3題

No.	設問の内容	正答率 (%)
1	資料を読み、米の生産が盛んな地域について、正しいものを選択肢から選ぶ [選択] (技)	93.3
2	米作りの機械化による変化について、複数の資料を読み取り、記述する [記述] (表)	82.6
3	自動車の部品を再利用する目的としてふさわしいものを、選択肢から選ぶ [選択] (知)	82.5

【正答率の低い設問】 下位3題

No.	設問の内容	正答率 (%)
1	日本の貿易相手国について、複数の資料を読み取れることを選択肢から選ぶ [選択] (技)	33.2
2	近年、日本で起きた自然災害とその発生場所を選択肢から選ぶ [選択] (知)	34.4
3	組み立て工場での作業について、正しく説明しているものを選択肢から選ぶ [選択] (知)	37.5

【無解答率が高い設問】 下位3題

No.	設問の内容	無解答率 (%)
1	「情報」という言葉を使って、情報モラルに関する発言の一部を記述する [短答] (思)	17.4
2	身のまわりのメディアをまとめた表の空欄に、漢字2文字を書く [短答] (知)	13.7
3	災害が発生した際の対応について最もふさわしいものを選択肢から選ぶ [選択] (思)	11.8

【授業改善のポイント】

平均正答率は昨年度からの改善がみられるものの依然として「基本的な用語や事象の定着」に課題が見られる。また、新学習指導要領で強調されている安全教育にも課題が見られ、自然災害に関連する教材化や授業実践を通して、災害時の対応について、より具体的・実践的な判断力の育成が求められる。単に暗記するだけの学習になっていると思考・判断・表現等とも連動する「使える知識や技能」の習得につながらない。児童が疑問をもち、それを追究・解決するために、見通しをもって学習を進めていくことが必要だと考えられる。特定の学年や単元ではなく社会科全体の視点から授業改善のポイントとして4点を示す。

(1) 単元・授業をデザインしていますか？

- 「ねらい」を明確にする。(資質能力の明確化)
 - ・本単元で目指すことは？ ・本時で目指すことは？
 - ・中学校では何をやるのだろうか？
- 単元を見通した計画を立てる。(授業のデザイン)
 - ・身に付けさせたい資質能力は？ そのためには何を考えさせたいか？ どのように考えさせたいか？

(2) 児童の「問い」を繋いでいますか？

- 児童から「問い」が生まれるような「教材」を提示する。(発問の吟味、効果的な教材)
 - ・例) 「これは何でしょう？疑問はありますか？」
 - 「～であるのに、なぜこのようになっているのでしょうか？」
 - 問題解決的な学習へ
- 「問い」を受けて出てきた児童の疑問や予想を生かすような学習展開にする。(授業の再デザイン)
 - ・例) 疑問→学習課題の設定→予想→学習計画 (学習の見通し)

(3) 「問い」の追究のために効果的な場面を設定していますか？

- 課題追究や課題解決の場面では効果的に言語活動を取り入れる。(手段としての言語活動)
 - ・「何について考えるのか。何について話し合うのか。」目的や意義を明確にしておく。
- 考える根拠になるような資料を用いる。(必然性のある資料提供、適切な資料選択)
 - ・「何のための資料なのか。どのような資料が必要なのか。」資料を用いる目的や意味を確認する。
- 考えを表現する場面を設定する。(アウトプットする習慣)
 - ・「(調べたことから) ～だと考えられます。～と思います。」調べたことを根拠にして考えたり表現したりできるようにする。
 - ・「私はこう考える。～を知って～のように考えが変わった。」学習内容を用いて表現するように促す。
- 児童とのやりとりを通してまとめる。(児童の学習内容の関連付け)
 - ・「～についてはどう考えますか？」問い返したり、児童の考えをつないだりしながら、まとめる。

(4) 学習過程の評価をしていますか？

- 単なる「活動のまとめ」ではなく、各時間の「学習課題に対応したまとめ」の実施 (学習内容のまとめ)
- 児童自身による振り返り (学習調整的役割)
 - ・何がわかったか、何がわからなかったか、新たな疑問はあるか等
 - ・例) OPPを活用して自ら学びを振り返る。
 - そこから新たな疑問が出てきて次の学習につながることも考えられる。
- 教師による振り返り (授業改善の視点)
 - ・「ねらい」としていたものがどの程度定着しているのかという視点から、児童の実態及び実践について振り返り次につなげる意識を持ち、今後の授業のデザインに反映させる。

2019年度 調査結果と授業改善のポイント〔小学校・理科〕

6年生の理科について、児童の平均正答率は59.9%で、全国平均の59.9%と同じである。一昨年は全国平均を5.7ポイント下回っていたのに比べ、向上が見られる。
 「基礎」が0.1ポイント上回っているが、「活用」が全国平均を0.3ポイント下回っている。
 問題の領域別正答率では、「物質・エネルギー」で全国平均を1.6ポイント上回っているが、「生命・地球」では全国平均を0.7ポイント下回る結果となっている。特に「顕微鏡の使い方」、「電流のはたらき」に課題が見られる。
 評価の観点別の平均正答率では、「科学的な思考・表現」「観察・実験の技能」が0.6ポイント全国平均を上回っているが、ほかの観点は全国平均を下回っている。
 出題形式では、「選択式」が全国平均を1.2ポイント上回っているが、「記述式」は3.9ポイント、「短答式」は1.0ポイント全国平均を下回っている。

対象児童数	設問数	平均正答率（県）%	平均正答率（全国）%	全国との差
626人	32問	59.9	59.9	±0

種別		対象設問数	平均正答率（県）%	平均正答率（国）%	全国との差	
問題の内容	基礎・活用	教科全体	32	59.9	59.9	±0
		基礎	24	65.9	65.8	+0.1
		活用	8	41.8	42.1	-0.3
	領域	物質・エネルギー	10	47.9	46.3	+1.6
		生命・地球	22	65.3	66.0	-0.7
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	8	61.5	62.1	-0.6	
	科学的な思考・表現	20	58.0	57.4	+0.6	
	観察・実験の技能	6	37.9	37.3	+0.6	
	自然事象についての知識・理解	29	62.4	62.8	-0.4	
解答形式	選択式	19	66.7	65.5	+1.2	
	短答式	10	54.0	55.0	-1.0	
	記述式	3	36.4	40.3	-3.9	

【設問ごとの定着状況】

△：全国平均正答率を上回っている問題 ▼：全国平均正答率を下回っている問題

〈天気の変化〉	△ 台風が日本を通過したときの3枚の雲画像を日付の順に並び替える	〔短答〕〈思〉
	▼ 春のころの雲の動きを説明する一文の空欄にあてはまる方位名を書く	〔短答〕〈知〉
〈植物の花のつくりと実〉	▼ 顕微鏡でアサガオの花粉を見たときの図を選択肢から選ぶ	〔選択〕〈知〉
〈物のとけ方〉	△ 食塩を水に溶かす前と後の全体の重さについて、選択肢から選ぶ	〔選択〕〈知〉
〈電流のはたらき〉	▼ 電流の強さを強くする方法の誤っている内容を説明する	〔記述〕〈表〉
① 〈ふりこのきまり〉	△ 空中ブランコの1往復する時間が、人数によってどのように変わるかを説明する	〔記述〕〈思〉

【正答率の高い設問】 上位3題

No.	設問の内容	正答率 (%)
1	上流から下流の川原で見られる石の様子を表した図を選択肢から選ぶ [短答] (知)	94.4
2	台風接近中の行動としてふさわしくないものを選択肢から選ぶ [選択] (思)	90.4
3	メダカがたまごの中で育つ様子について, 選択肢から選ぶ [選択] (知)	89.1

【正答率の低い設問】 下位3題

No.	設問の内容	正答率 (%)
1	顕微鏡の図を見て, カバーガラスの名称を書く [短答] (知)	14.5
2	顕微鏡の操作について, 選択肢を正しい手順に並び替える [短答] (技)	15.3
3	電流の強さを強くする方法の誤っている内容を説明する [記述] (表)	24.2

【無解答率が高い設問】 下位3題

No.	設問の内容	無解答率 (%)
1	顕微鏡の図を見て, カバーガラスの名称を書く [短答] (知)	26.8
2	空中ブランコの1往復する時間が, 人数によってどのように変わるかを説明する [記述] (思)	17.3
3	電流の強さを強くする方法の誤っている内容を説明する [記述] (表)	15.8

【授業改善のポイント】

〈物質・エネルギー〉

- 観察や実験の器具を整備し, 操作の目的を明確にしなが、見通しをもって観察, 実験を行うことを重視
- ・電流のはたらきの単元においては, 電源の直列つなぎと並列つなぎを比較した実験を, 変える条件と変えない条件を明確にしなが、電流の流れる大きさや向きに着目させて行う。
- 問題を見いだす活動を行い, 見いだした問題に対する仮説や実験計画, 仮説と結果からの考察などについて, 対話的な活動を取り入れた活動を重視
- ・児童主体の問題解決とするために, 問題を見出す場面を工夫する。
 - ・見いだした問題に対して, 各自が結果までを見通しながら仮説を記述したり, 変える条件と変えない条件を明確にしなが、実験方法を立案したりする。
 - ・各自の仮説に対して結果から言えることを記述し, 小集団や学級全体における対話的な活動を通して, より妥当な結論を, 学習によって得た科学的な言葉や概念を使って表現する。

〈生命・地球〉

- 観察や実験の目的だけでなく, 操作の目的も明確にしなが、結果までを見通した観察, 実験を行うことを重視
- ・観察や実験によって得られるデータを目的にあわせて整理し, 理解する。
 - ・生物の観察を行い, 各部の名称だけでなく, それぞれの役割も含めて整理し, 理解する。
 - ・顕微鏡を利用した生物の観察を行い, 観察された生物の各部の名称や役割はもとより, 顕微鏡の操作手順も明確にしなが、観察を行う。
- 観察, 実験によって得られる結果を目的にあわせて整理し, この結果をもとに仮説に対する考察を自分の言葉で記述し, 対話的な活動を通してまとめることを重視
- ・日本付近における季節ごとの天気の特徴について話し合い, 学習を通して身に着けた科学的な言葉で表現し, まとめる。
- 学習した内容を基に, 関連する自然現象について考察する学習の重視
- ・観察や実験によって得られた知識・技能をもとに, 次の問題を発見したり, 関連する自然現象について考察したり, 科学的な言葉や概念を使って表現する活動を行ったりする。

2019年度 調査結果と授業改善のポイント〔中学校・社会〕

3年生の社会科について、生徒の平均正答率は56.8%で、全国平均の56.3%を0.5ポイント上回っている。昨年度に比べ0.4ポイント向上している。

「基礎」が0.8ポイント全国平均を上回っているが、「活用」は全国平均を0.6ポイント下回っている。

問題の内容別正答率では、「近世の日本」で全国平均を1.1ポイント下回っている他は、すべての内容で全国平均を上回る結果となっている。特に「身近な地域の調査」(+3.3ポイント)、「日本の諸地域」(+0.8ポイント)に改善が見られる。

評価の観点別の平均正答率では、「社会的な思考・判断・表現」が0.8ポイント全国平均を下回っているが、ほかの観点では全国平均と同じ、あるいは上回っている。

出題形式では、「記述式」が全国平均を1.3ポイント上回っているなどすべての形式で全国平均を上回っている。

対象生徒数	設問数	平均正答率(県)%	平均正答率(全国)%	全国との差
640人	29問	56.8	56.3	+0.5

種別		対象設問数	平均正答率(県)%	平均正答率(国)%	全国との差	
問題の内容	基礎・活用	教科全体	29	56.8	56.3	+0.5
		基礎	22	60.8	60.0	+0.8
		活用	7	44.0	44.6	-0.6
	領域	日本の地域構成	3	55.7	54.9	+0.8
		世界と比べた日本の地域的特色	3	55.7	55.4	+0.3
		日本の諸地域	7	63.8	62.0	+1.8
		身近な地域の調査	2	54.4	51.1	+3.3
		近世の日本	10	52.3	53.4	-1.1
近代の日本と世界	4	58.6	57.9	+0.7		
評価の観点	社会的な思考・判断・表現	16	48.6	49.4	-0.8	
	資料活用の技能	20	58.6	57.3	+1.3	
	社会的な事象への関心・意欲・態度	14	56.1	56.1	±0	
	社会的な事象についての知識・理解	26	59.2	58.8	+0.4	
解答形式	選択式	20	57.9	57.6	+0.3	
	短答式	7	57.3	56.3	+1.0	
	記述式	2	44.4	43.1	+1.3	

【設問ごとの定着状況】

△：全国平均正答率を上回っている問題 ▼：全国平均正答率を下回っている問題

〈日本の諸地域〉

△ みかんと茶の収穫量のグラフの空欄に入る都道府県を選択肢から選ぶ [選択] 〈技〉

△ 九州地方における政策について、複数の資料から探究し、その内容を説明する [記述] 〈表〉

▼ 東北地方における「伝統と人々の生活との結びつき」に関して調べる学習の仕方として適切でないものを選択肢から選ぶ [選択] 〈思〉

〈身近な地域の調査〉

△ 地形図から標高を読み取る [短答] 〈技〉

〈ヨーロッパ人の出会いと全国統一〉

▼ 複数の資料において、空欄に共通する人物名として「豊臣秀吉」と書く [短答] 〈技〉

▼ 検地と刀狩が行われた結果を説明した文を選択肢から選ぶ [選択] 〈思〉

〈江戸時代〉

△ 参勤交代に関する説明文の空欄にあてはまる語句の組み合わせを選択肢から選ぶ [選択] 〈知〉

▼ 複数の資料を読み取り、開国後の物価の変化の理由として正しい組み合わせを選択肢から選ぶ [選択] 〈思〉

【正答率の高い設問】 上位3題

No.	設問の内容	正答率 (%)
1	みかんと茶の収穫量のグラフの空欄に入る都道府県を選択肢から選ぶ [選択] (技)	84.8
2	原爆ドームを説明する文章の空欄に漢字四字で「世界遺産」と書く [短答] (知)	81.9
3	都道府県名と県庁所在地名が同じである組み合わせを選択肢から選ぶ [選択] (技)	76.6

【正答率の低い設問】 下位3題

No.	設問の内容	正答率 (%)
1	鉄鉱石の日本の自給率と主な輸入先を示したグラフを選択肢から選ぶ [選択] (思)	27.5
2	関東の工業地域の出荷額の推移と内訳を示すグラフの組み合わせを選択肢から選ぶ [選択] (思)	31.6
3	資料を読み取り、かつて日本に存在した時差について、選択肢から選ぶ [選択] (思)	33.6

【無解答率が高い設問】 下位3題

No.	設問の内容	無解答率 (%)
1	複数の資料を読み、植村文楽軒の後継者が大阪を離れた理由を説明する [記述] (思)	34.2
2	複数の資料を読み、天草市の政策で利用上の制限がある理由を説明する [記述] (思)	26.9
3	明治政府のめざした政策を漢字四字で「富国強兵」と書く [短答] (技)	20.5
	江戸時代の商人に関する説明文の空欄に「株仲間」と書く [短答] (知)	20.5

【授業改善のポイント】

全体として全国平均を上回っており、用語等を答える問題については、いずれの分野・領域においても比較的高い正答率を示している。用語等の習得に向けた各校での取組の成果だといえる。しかし、複数の事象や資料の読み取りが求められる出題になると課題が見られる。社会科の「見方・考え方」を働かせた読解力の育成を目指すとともに、用語や事象について単なる言葉として捉えるのではなく、その背景や因果関係を理解した上で、その言葉がもつ「本質」を理解できるようにすることを生徒も授業者も意識する必要がある。そのため授業改善のポイントとして3つの視点から示す。

【社会科全般】

(1) 単元・授業をデザインしていますか？

〈指導計画〉

- 「ねらい」を明確にする。(資質・能力の明確化)
 - ・社会科として目指すことは？ 本分野で目指すことは？ 本単元で目指すことは？
- 小学校までの学習内容を把握し、社会科における系統性を明確にする。(小中連携)
 - ・小学校では何をしてきたのだろう？ → 学習内容の精選
 - ・小学校ではどのように学んできたのだろう？ → 学習方法の連動
- ※小学校までの学習を踏まえ、中学校でも安全教育の視点について取り入れることが必要。
- 1時間単位ではなく、単元を見通した計画を立案する。(構造化、見通しのある実践)
 - ・ねらい達成を目指した中長期的な学習計画を立て、効果的な学習課題、学習活動を検討する。

〈課題設定〉

- 生徒から「問い」が生まれるような教材を提示する。(問いの吟味、効果的な教材)
 - ・小学校段階での「疑問→課題設定→予想→学習計画」といった手法をいかす。

〈活用〉

- 学習内容を用いて考える場面を設定する。(活用場面の設定)
 - ・「見方・考え方」を働かせるための発問の工夫
 - ・課題を追究・解決するための視点や方法を効果的な提示
 - 視点：「位置や空間的広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の相互関係」等
 - 方法：「比較」「関連付け」「統合」等を効果的に実施するための手段としての言語活動
 - ・説明したり、議論したりする場面の設定
 - ・自分だったらどうするか考えるなど、「考察」した上で「構想」するような場面を設定する。

〈評価〉

- 生徒も授業者も評価を次につなげる。(学習調整的役割)
 - ・生徒は次の学びに、授業者は次の授業デザインにつなげる。

【地理的内容】

(2) 地形図や統計資料等を基に考察する学習を継続的に行っていますか？

- 地形図や雨温図等の資料を的確に読み取ったり、有効に活用して事象を説明したりする学習活動を計画的かつ継続的に取り入れる。(学び方の習得)

【歴史的内容】

(3) 歴史の大きな流れを捉える学習を継続的に行っていますか？

- 用語や事象について自分の言葉で説明する活動を取り入れる。(歴史的事象の本質的理解)
- 資料を基に歴史的事象の背景や影響・歴史の意義について文章や関係図等に表現したり、説明したりする学習活動を計画的かつ継続的に取り入れる。(大観学習)

2019年度 調査結果と授業改善のポイント〔中学校・理科〕

3年生の理科について、生徒の平均正答率は54.2%で、全国平均の55.9%を1.7ポイント下回っている。一昨年度に比べ1.1ポイント差が開いている。

「基礎」が1.8ポイント、「活用」が全国平均を1.3ポイント下回っている。

問題の内容別正答率では、「粒子」で全国平均を0.2ポイント上回っている他は、すべての内容で全国平均を下回る結果となっている。特に「地球」(−0.6ポイント)、「生命」(−0.5ポイント)に課題が見られる。

評価の観点別の平均正答率では、「観察・実験の技能」が2.9ポイント全国平均を下回っているなど、すべての観点で全国平均を下回っている。

出題形式では、「記述式」が全国平均を1.7ポイント上回っているが、ほかの形式で全国平均を下回っている。

対象生徒数	設問数	平均正答率(県) %	平均正答率(全国) %	全国との差
642人	34問	54.2	55.9	−1.7

種別		対象設問数	平均正答率(県) %	平均正答率(国) %	全国との差	
問題の内容	基礎・活用	教科全体	34	54.2	55.9	−1.7
		基礎	24	57.5	59.3	−1.8
		活用	10	46.3	47.6	−1.3
	領域	エネルギー	8	44.9	45.3	−0.4
		粒子	8	59.0	58.8	+0.2
		生命	10	57.4	57.9	−0.5
		地球	8	54.9	60.9	−0.6
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	17	54.0	55.9	−1.9	
	科学的な思考・表現	17	51.8	53.5	−1.7	
	観察・実験の技能	6	66.6	69.5	−2.9	
	自然事象についての知識・理解	18	54.3	55.5	−1.2	
解答形式	選択式	23	53.7	56.2	−2.5	
	短答式	8	54.5	54.8	−0.3	
	記述式	3	57.4	55.7	+1.7	

①

①

【設問ごとの定着状況】

△：全国平均正答率を上回っている問題

▼：全国平均正答率を下回っている問題

	〈化学変化と物質の質量〉	
①	△ 発生した気体に質量があるかどうかを調べる実験を考え説明する	〔記述〕〈表〉
	〈生物と細胞〉	
	△ 同じ細胞の集まりの名称を「組織」と書く	〔短答〕〈知〉
	〈電流と磁界〉	
	△ 棒磁石のN極をコイルに近づけたときにコイルに流れる電流の名称を「誘導電流」と書く	〔短答〕〈知〉
	〈前線の通過と天気の変化〉	
①	▼ 寒冷前線と前線面と雲のようすについて表した図を選択肢から選ぶ	〔選択〕〈知〉
①	▼ グラフから寒冷前線が通過した時刻を推測する	〔短答〕〈思〉
	〈大気中の水蒸気の変化〉	
①	▼ 湿度を求める式を選択肢から選ぶ	〔短答〕〈知〉
	〈日本の気象〉	
①	▼ 図と表を読み取り、風向を選択肢から選ぶ	〔選択〕〈思〉

【正答率の高い設問】 上位3題

No.	設問の内容	正答率 (%)
1	酸化銅の還元の実験で、石灰水からガラス管をとり出したあとに火を消す理由を選択肢から選ぶ 〔選択〕〈技〉	90.3
2	実験で複数回時間を記録した理由を選択肢から選ぶ 〔選択〕〈技〉	89.4
3	刺激を受けてから反応するまでの信号の経路を選択肢から選ぶ 〔選択〕〈知〉	78.7

【正答率の低い設問】 下位3題

No.	設問の内容	正答率 (%)
1	熱量を計算し、エアコンの稼働時間がどのくらい短くなるかを求め、選択肢から選ぶ 〔選択〕〈思〉	25.5
2	白熱電球をLED電球に交換することで節約できる電力量を選択肢から選ぶ 〔選択〕〈思〉	33.3
3	モノグリセリドと脂肪酸の吸収のされ方について、選択肢から選ぶ 〔選択〕〈知〉	35.0

【無解答率が高い設問】 下位3題

No.	設問の内容	無解答率 (%)
1	発生した気体に質量があるかどうかを調べる実験を考え説明する 〔記述〕〈表〉	28.0
2	同じ細胞の集まりの名称を「組織」と書く 〔短答〕〈知〉	21.7
3	棒磁石のN極をコイルに近づけたときにコイルに流れる電流の名称を「誘導電流」と書く 〔短答〕〈知〉	21.2

【授業改善のポイント】

〈電流とその利用〉

□様々な条件を制御し、目的にあわせた実験方法を、見通しをもって立案する学習の重視

- ・実験の条件として、変化させる内容と変化させない内容に着目し、実験の目的にあわせた実験方法を見通しをもって立案し、対話的な活動を通して、より科学的な実験方法を導き出す学習活動を行う。
- ・熱量や電力量においては、その概念を十分に理解させるとともに、考え方や計算の仕方について自分の考えをもとにグループ内で説明し合うなど、対話的な活動を取り入れた学習を行う。

〈身の回りの物質〉

□観察や実験を通して、物質の性質や変化について理解させ、モデルを用いて表現する学習の重視

- ・物質の性質を理解し、その知識を活用して物質を分類したり特定したりする学習活動を行う。
- ・物質の変化においては、モデルを利用して表現し、化学反応の様子を視覚的に捉える学習活動を行う。

〈生物の体のつくりと働き〉

□観察や実験を通して基本的な技能と知識の定着を図るとともに、植物のからだのつくりの多様性と共通性に着目させ、つくりと働きを関連づけて理解する学習の重視

- ・基礎、基本の定着のため、授業内で既習事項を振り返る学習活動を行う。
- ・ICT 機器を活用するなど、効果的に理解しやすい指導上の工夫を行った学習活動を取り入れ、観察を通して器具使用上の基礎的技能を確実に習得する。
- ・見通しをもって実験を行うことに留意して予想と考察、まとめを行い、それぞれのステップにおいて自らの考えをもとに、グループ内で説明し合うなど、対話的な活動を取り入れた学習を行う。

〈気象とその変化〉

□授業時間数を確保し、見通しをもった実験や観察と対話的な活動を取り入れた学習を行い、観察結果や実験結果が示す内容や関係性について理解を深める学習を重視

- ・前線の構造について、前線が通過することによって発生する気温、湿度、気圧、風向、風速、雲の種類などの変化と関連付けて理解する。
- ・前線の構造については、暖気と寒気のぶつかり合いを示すモデル実験などにより視覚的に理解する。
- ・湿度においては、その概念を十分に理解させるとともに、考え方や計算の仕方について自分の考えをもとにグループ内で説明し合うなど、対話的な活動を取り入れた学習を行う。
- ・湿度に関連する実験の様子や測定値から導き出せるデータを整理し、それぞれのデータが示す内容についても、同様に対話的な活動を取り入れた学習を行う。
- ・気象観測の結果など、複数の資料をもとにして、考えられることを話し合う対話的な活動を取り入れた学習を行う。

「学力調査全体総括」と「理科・英語の継続的指導」 (190820)

・全体総括① 「やまなしの子供らしさ」は継続的・経年的に伸長

- ① 学習へ向かう素地の形成
- ② 小学校から中学校への伸び (同一生徒群)

・全体総括② 「Reading Skill」という課題 (全教科共通)

- ① 「読む」という習慣付け
- ② 「読み取る」という技能の定着へ向け

・全体総括③ 「経年的課題：記述式」⇒「施策との関連」

- ① 施策の浸透 ⇒ 改善傾向は現れている
- ② 施策の継続的・発展的実践を

・全体総括④ 「学校別・教科別の分析」⇒「個人ごとの伸長へ」

- ① 全校体制 (校内研等) で授業改善の一助として
- ② 「質問紙調査」とのクロス集計

・全体総括⑤ 「今後」という希望・課題に対して・・・

- ① 「質問紙調査」からみえた子供たちの実態を各方面へ
- ② センターHPの活用を
(含:教育課程状況調査)

・理科・英語への継続的指導① ⇒「3年サイクルがゆえ・・・」

- ① 該当学年のみを指導すればいい ✖
- ② 該当学年の教師のみが意識すればいい ✖

・理科・英語への継続的指導② ⇒「連携の推進＝重要」

- ① 小小・小中連携 ⇒ 枠組作り＋継続性
- ② 経年比較・ノウハウ継承 ⇒ 組織内連携

事 務 連 絡

令和元年 8月20日

各市町村（組合）教育委員会教育長 殿
各 小 中 学 校 長 殿
各 教 育 事 務 所 長 殿

山梨県総合教育センター
調 査 研 究 課

2019年度 山梨県総合教育センター研究協力校 拡大校内研究会について（一次案内）

平素より本センターの運営に、格別の御理解と御協力を賜り感謝申し上げます。

さて、当センターでは下記の学校を研究協力校とし、山梨大学教育実践総合センターの御指導・御協力を仰ぎながら、「授業・学校づくり」「情報教育」「教育相談」「特別支援」に関する研究を進めております。

今年度は、拡大校内研究会を開催し、関係各位の御指導をいただき、研究をさらに深めて参りたいと存じます。つきましては、御承知おきいただくとともに、貴所属職員への周知についてお取り計らいくださいますよう、お願い申し上げます。なお、学校ごとの内容・申込み等の詳細は、開催1か月前に配付する二次案内でお知らせいたします。

- 1 甲斐市立竜王北小学校 「授業・学校づくり」（2年次）
①日 時 令和元年10月23日（水）14:10～17:00
②内 容 研究授業（3年道徳，5年算数） 全体会 分科会
- 2 中央市立田富中学校 「授業・学校づくり」（2年次）
①日 時 令和元年10月28日（月）14:45～17:00
②内 容 研究授業（1年数学，2年理科，3年英語） 研究会
- 3 道志村立道志小学校 「授業・学校づくり」（1年次）
①日 時 令和元年11月19日（火）13:20～16:50
②内 容 研究授業（1年算数，6年算数） 分科会 全体会
- 4 南アルプス市立若草南小学校「情報教育に関する研究」（1年次）
①日 時 令和元年11月27日（水）13:40～
②内 容 研究授業（ICT機器活用） 研究会

山梨県総合教育センター 調査研究課

TEL 055-262-6180（直）

FAX 055-262-5572

■この冊子は、山梨県総合教育センター
ホームページに掲載しています。